



ハイロー(HighLow) 「マインドセット」

トレードにおける最大の
そして最後に現れる敵は
自分自身の心!

あなたの**マインドセット**1つで
利益確保が大きく変わる

ルールを作りセオリーを徹底して守る事のできる
マインドをいかにしてセットするのか!

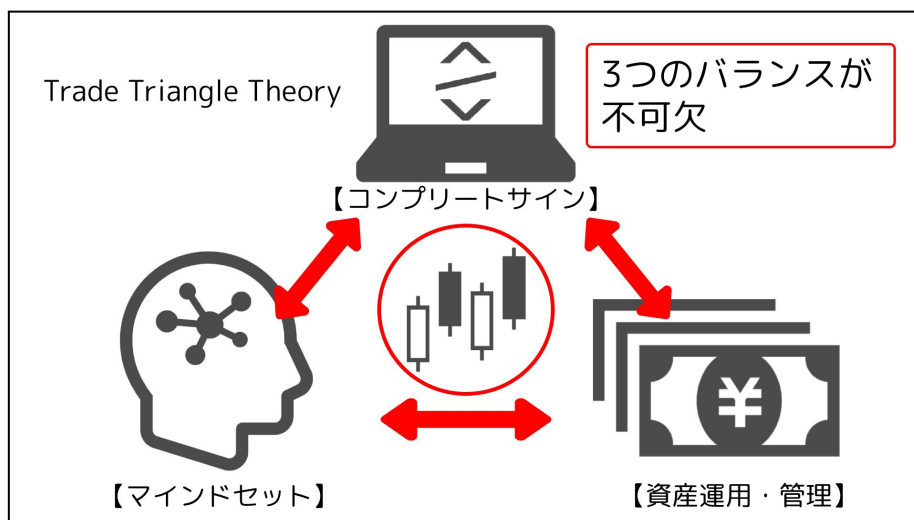
【著作権について】

- このレポートは著作権法で保護されている著作物です。
- 著作権は ライフ出版 株式会社 に帰属します。
- このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。
- 使用者は本冊子から得た情報を、著者の事前の許可なく一般に公開する事を禁止します。
- このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等であり、著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。
- このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。
- このレポートを利用することにより生じた、いかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

目次

◆はじめに	3
◆マインドセットは最終利益確保の必須アイテム	9
◆心理を知らずトレードをしてはいけない	13
◆トレードに心理学を活かす	17
・ギャンブル的感情は心理の法則にはまっている	17
・心理学を知っているのと知らないのではまる違う	17
・心理用語は冷静さを取り戻す「マジックワード」	18
【プロスペクト理論】損を気にしなくなる	21
【サンクコスト効果(コンコルド効果)】引き際が決められる	29
【認知バイアス】思い込みを解消する	34
【認知的・不協和理論】自分ルールを作り守るために	39
【ギャンブラーの誤謬(ごびゅう)】確率論の考えを正す	43
【ヒューリスティック】3つの理論の重要性に気づく	47
【心理的リアクタンス】禁止行為を素直にしなくなる	53
◆人間のネガティブな3つの感情	56
【プレッシャー／Pressure】	56
【欲／Greed】	58
【恐れ／Fear】	59
◆簡単なマインドセット・5つのポイント	64
① 各セオリーを理解するまではデモトレードのみ	66
② エントリー条件が揃わないときはトレードしない	68
③ 2回連続負けたら一度チャートから離れる	72
④ 目標金額に達したら出金を行う	74
⑤ 自分ルール表を作成し心で唱える	80
◆今日トレードしますか？ なら「Chill out」	82
エントリーが気楽に待てるようになる、内面的対処	84
◆さいごに	87

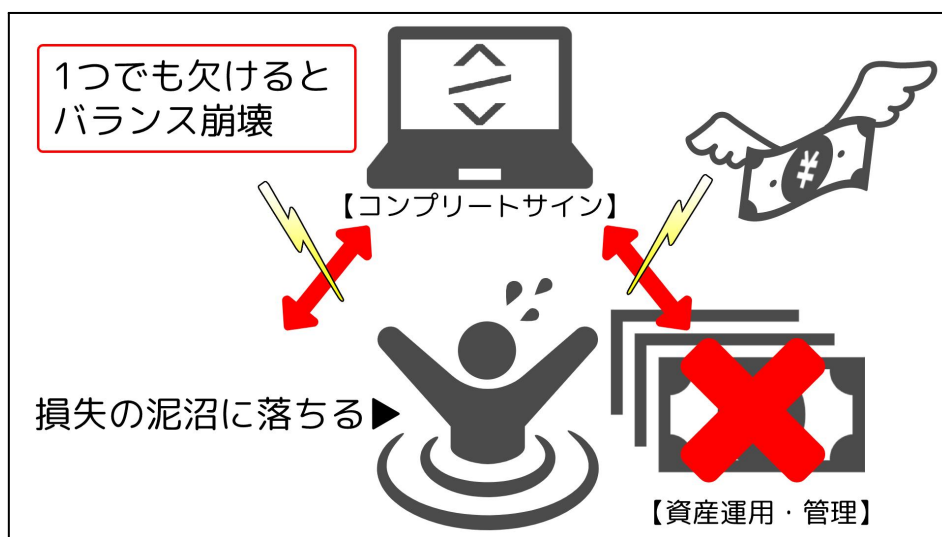
◆はじめに



「システムツール」×「マインドセット」×「資金運用・管理」
この3つのセオリーのどれが欠けてもトレードを成功させることはできないと、私は伝えてきましたね。

そんな中でも、私個人の意見としては、この「マインドセット」が最も難しく、そして重要度が高いと考えています。

「コンプリートサイン」の技術的な理論も、
「資金運用・管理」の適正な資金理論も、
このマインドセットが欠けると、あっという間に崩壊するからです。



特にバイナリーオプションは、長期運用の株式投資などと違い、とても短い時間でトレードが完了します。

本CLUBでも行うトレードは「1分」です。最適なエントリータイミングを見つけトレードをするまでに、文字通り1分で確定するわけです。

このように勝敗が瞬間的に決まるトレードなのに、システムツールが示すサインを見つけながら行うとなると、的確なタイミングが訪れるまで、「待つ」こととなります。

MT4チャートを見ながら、またはアラート音が鳴るまで、まるで釣りか何かのように、のんびりと待ち続け、そしてチャンスがきたら、上手にそして間違いなく勝ちを取りに行くわけです。

つまり、
エントリーする時間よりも、待ち時間の方が長いわけです。

どれだけ穏やかな精神状態で、的確なエントリーを待てるか、、、言葉にして言うのは簡単ですが、いざ、トレードをはじめてみると、これがいかに困難なことであるか、すぐにわかりますよ。

特に人間、待っているときは時間が長く感じるものです。システムツールが示すサインを求めて画面を見ていると、それがなかなか出てこない、段々じれてきますよね？

そうすると、サインは的確に示していないけど、「このぐらいの誤差なら、エントリーしてもいいかな、、、」という誘惑にかられます。

また、画面のローソク足が微妙に動くのを長い時間眺めていると、何でもいから、ついついエントリーしたくなってしまう。



視覚的効果というモノは想像以上に大きいですよ。
 何かに後押しされているような感じにとらわれていき、
 ふと、クリックして、エントリーしています。

トレード勝率は何もしなければ、基本的には50%です。
 ちょっとした誤差なら勝つこともあるでしょう。

もし2度か3度ほど利益が出ると、そこで勘違いしてしまいます。
 「これぐらいなら勝てるな」と。。

しかしそれでも、トレードをはじめたばかりの最初の頃は慎重なので、
 自分が定めたルール通りにトレードをするでしょう。

こうした誘惑がはじまるのが、何度か勝ちを重ねて、トレードに慣れてきた頃
 です。

個人差はありますが、概ねそうした感覚は、はじめて3ヵ月ごろに起こりま
 す。何の根拠もなく、自分の「直感」なるものに妙な自信を持ち始めるので
 す。

「あ、ここはいけるぞ、今、ピンと来た！」などという、
 大いなる勘違いを持ち出します。

「慣れ」も自分の油断への大きな誘惑の1つです。
そうなのです、トレードをするということは、こうしたいくつもの誘惑が、あなたを待っているのです。



じりじりとアップダウンを繰り返すローソク足は、まさしく、無駄なエントリーへの誘惑の象徴です。

- ▷ こうした誘惑を簡単にはねのけ、
- ▷ 的確なサインのタイミングを冷静に待つことができ、
- ▷ 慣れても自分のペースを崩すことのない、

精神状態を作り上げるのが、この「マインドセット」というわけです。

本CLUBのシステムツールを使いこなすのは簡単です。
トレード初心者でも上級者でも関係なく扱えます。

しかし「マインドセット」を習得していない人は、慣れてくると必ずセオリーを無視しはじめるのです。

全て、心、精神への誘惑です。

そしてこれは、多くのトレーダーが自分では気づくことなく振り回されてしまう心理です。

この項目では、セオリーとルールを無視してしまう心理的原因から、その対処法についてお話します。

どこから多くの「誘惑」はきているのか？
それはどのような心理なのか？

そうした心理を上手におさえこむにはどうすればよいのか？
誘惑をはねのけ、冷静にトレードを行うにはどうすればよいのか？

心理にはもちろん、権威ある学術業界にて提唱されている、きちんとした理論があります。

そうした心理学をきちんと知り、紐解いていけば、物事が簡単に見えてきます。

権威ある学術業界なんて言葉を聞くと、とても難しく聞こえますが、何も難しいことは一切ありませんよ。

また冒頭に私も
「マインドセットが最も難しく、そして重要度が高い」
と記載しましたが、ここは誤解しないようにしてください。

難しいのはあくまで、知らなければ、あなたは自分の精神を上手におさえるのが難しい、ということです。

本CLUBでお伝えするマインドセットの方法は、とても簡単です。
大切なのは、知っているか知っていないかの違いです。

これから紹介していく心理的要因を知った上で、
ごくごく簡単な、すぐに実践可能なマインドセットをお伝えします。

本項目のPDFを順序通りに読み進めていき、セオリー通りに行えば、
簡単にマインドセットが習得できるはずですよ。

さあ、それでは、
マインドセットの重要性を知り、きちんと身に付けましょう。

◆マインドセットは最終利益確保の必須アイテム

マインドセットをすると、驚くほど冷静な精神状態が手に入れられ、システムツールと資金運用・管理を確実に活かすことができ、そして最終的に、目標の利益確保が可能になります。

つまり、マインドセットは、トレードで勝利したモノを、最終利益確保へとつなげていく必須アイテムなのです。

最初にトレードの最中における、心への誘惑の話をしました。誘惑が起こり始める何よりの理由は何と言っても、「待つ」という行為によりおこる精神への**ストレス**です。



ローソク足を眺め、エントリーのサインをじっと待っていると、何の変化もない待ち時間にすぐあきて、この待つという状態のストレスを何とか解消したいという感情が、自然と湧きあがります。

さらに人の脳は、外部環境で変化が起こったときにドーパミンが分泌され、刺激や興奮といったことを感じ取る仕組みになっています。

これは先ほどのストレスとは真逆の状態、精神的には心地よさを感じる状態です。

待ちによるストレスの不快感から逃れたいという気持ちと、
変化がもたらすドーパミンによる心地よさを得たい
という気持ちの葛藤、これが、まさしく誘惑への起爆剤です。

システムツールが示すサイン通りにエントリーしなければならない、
と頭ではわかっている、なかなかその状態にならない。

これは待ちの状態、つまりストレスを感じている精神状態です。
まずここから逃れたいという気持ちになります。

ローソク足が目の前で、上下に動いています。
とにかくエントリーするということは、結果がどうであれ、
そこには変化が生じます。

これは、変化がもたらすドーパミンによる心地よさを得たい、
という精神状態です。

そこで、ふと、画面上のサインを見てみると、
セオリーではエントリーしない状態。
でも、なんとなくいけそうな気配、と勝手に思い込む。
そうすると、「まあ、これぐらいならいいかな」と考え、
そこでエントリーします。

マインドセットを怠ると、結局、このように誘惑に負け、
せっかく得たサインもルールも無視してエントリーしてしまいます。

また、こうした状態で、たまたま勝ってしまうと厄介です。

脳内でドーパミンが大量分泌され、一気に興奮状態になります。



「やった！」単純に言えば、このような精神状態ですね。

これはドーパミンの中でも**報酬シグナル**と呼ばれるモノで、
脳内での刺激はかなり強く、もっと、もっととなります。

もう1つのセオリー、資金運用・管理の面でもお話しておきましょう。

資金運用・管理は、この後の項目で詳しくお話しますが、本CLUBではある
一定のパーセンテージ金額でトレードを行います。
それが最も「月収100万円」を目指せるセオリーだからです。

しかし、このように、一定のパーセンテージ金額でトレードすると
頭で覚えても、マインドセットを怠ると、セオリーとは違うことを
したくなります。

特に、少しばかり勝ちが続いてくると、ふとした拍子に、
「よし、今回はなんとなくいけそうだから、
多めの金額でベットしてみるか」
と自分で決めたはずのルールを無視して、増額したお金でエントリーしてし
まいます。

これも変化がもたらすドーパミンによる心地よさを得たい、という精神状態ですね。

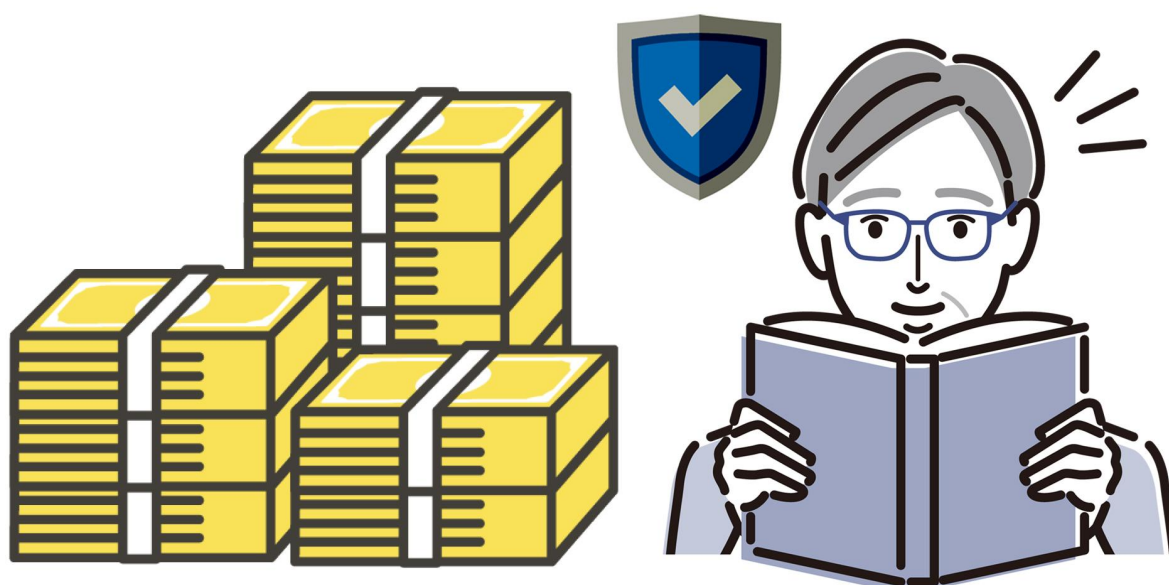
また、ここでも、たまたま勝ってしまうと厄介です。脳内でドーパミンが大量分泌され、一気に興奮状態になります。そしてまた「やった！」この精神状態におちいります。

セオリー外のことをしても、確かに、たまたま勝つこともあるでしょう。しかし、それは長い目で見れば、やはり利益には決してつながらないのです。そのときたまたま勝っても、それはその場限りです。

こうした、ドーパミンがもたらす誘惑に負けてしまった先にあるのは、**泥沼のような負けトレード**です。

しかも、ドーパミンによる快楽物質を一度味わってしまっているのに、同じ刺激を求め続けていきます。文字通り、泥沼ですよ。

システムツールと資金運用・管理を最も有効に活かすためには、マインドセットが必須アイテムなのです。そしてそれは、あなたを誘惑から守る強固な盾でもあるのです。



◆心理を知らずトレードをしてはいけない

ここから、マインドセットを習得していくのですが、その前に、きちんと、トレードにおける「人間心理」を把握しておく必要があります。

トレード中において人は、ある種の法則のような心理状態に、自分でも気がつかない内におちいついていきます。

これは先ほどの脳内におけるストレスやドーパミンによる刺激などとも関係のある事柄でしょう。つい、それを避けてしまう、もしくは求めてしまうのです。

この自分自身でも気がつかない内に、、、というところに心理を知る重要性があります。



「自分は違う」

「自分はそうはならない」

「いつも自分は冷静だ」

「自分は第三者の視点で見ている」

「自分には直感が備わっている」 などなど、、、

心理のことを何も知らずに、こうした考えを持ってトレードをしている人ほど、心理の法則に知らない内にはまっているものです。

そして、その手のタイプのトレーダーは、自信過剰、思い込みの激しい人が多いので、上記の言葉とは反対に、まるで冷静に自分のことを見ようとはしません。

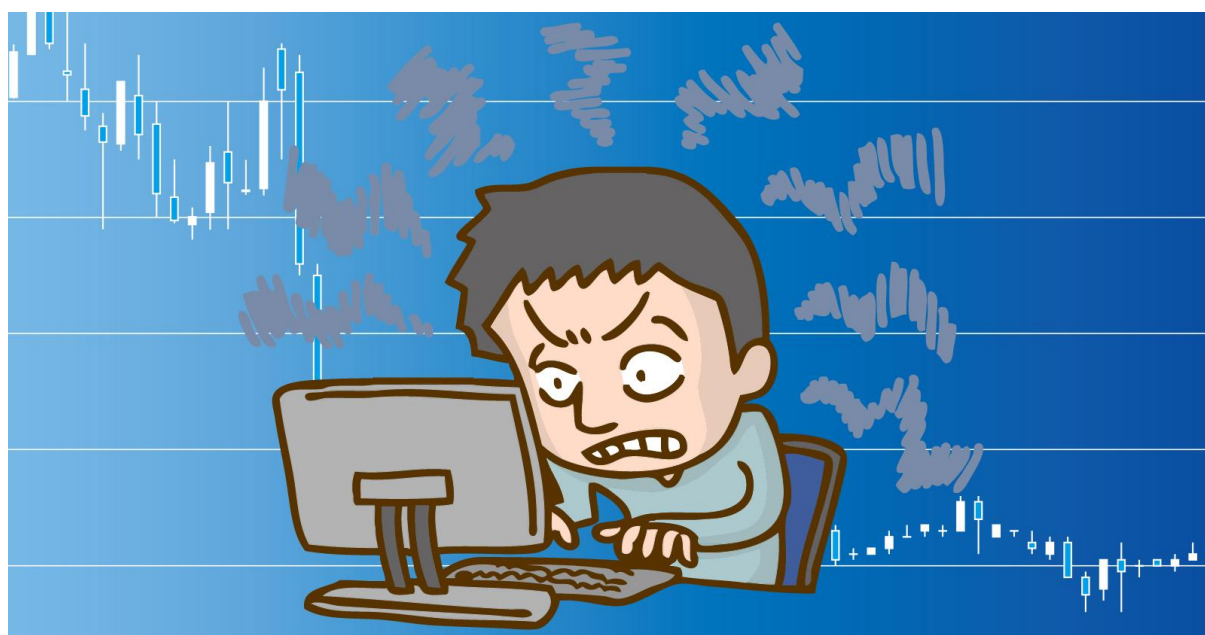
また、大抵、自信過剰のトレーダーは、技術的理論だけは習得しているものです。おそらく、技術的なことを知っているだけに、余計に自信過剰になりがちなのでしょう。

また、勝っているうちは良いですが、自信過剰タイプのトレーダーは、一たび負け出すと、泥沼におちいりやすい傾向にあります。

例え技術的な理論を脳内でわかっているとしても、負けによる衝撃で、精神と脳が自分の意思と反して暴走をはじめます。「頭に血が上る」という表現がありますが、まさしく、このことです。

脳内への影響で言えば、血流があまりにも活発化しすぎて、どうにも自分自身では制御ができなくなります。また精神面で言えば、焦りで、冷静さを失います。

カッカしたような状況で、トレードをしても、間違いなく、そこからはただのギャンブルになります。



実はこれは、負けたことが引き金になりやすいことではありますが、技術的な理論だけでトレードをしていると、遅かれ早かれ、頭に血が上った状態になります。

例えば、大きく勝ち続けている場合なら、脳が活性化しすぎてしまい、「次もいける、次もいける、まだいける、、、」

このようになります。

反対に負けが続く場合も、脳が活性化しすぎてしまい、「次で取り返してやる、次こそは取り返す、次さえ勝てば、、、」

となります。

こうした状況はまさしく、自分では気がつかない内に、心理の法則に当てはまってしまっている精神状態です。

心理を知っていなければ、自分がそうした状態になっていることには、気づくことは永遠にありません。

そして、心理というものは、学術的に権威ある人たちによって、それなりに理論立てられています。

だから、そこを知ることにより、自分の行動がそうした心理に当てはまっていることへの気づきへとつながるのです。

ある種の典型的パターンとも言える、法則通りの心理に自分の精神がおちいらないようにするための第一歩は、何よりも知ることです。

知れば、もし仮に自分がその心理状態になっていても、そこで気がつき、最悪な事態を避けることができるようになりますよ。

自分自身で心理の法則に今当てはまっているのかいないのか、冷静に分析するためにも心理そのものをまずは知ってくださいね。

そうしないと、マインドセットをすることもなく、いつまでも気がつかない状態で延々と**負のトレード**を続けてしまいますよ。

◆トレードに心理学を活かす

・ギャンブル的感情は心理の法則にはまっている

すでに何度も申し上げていますが、ここでも言いますね。

バイナリーオプションはトレードであって、
ギャンブルではありません。

とにかく手軽に出来るトレードなので、ついうっかりすると、
すぐにギャンブルになってしまうのがバイナリーオプションです。

ギャンブルがいかに危険で、決してトレードには持ち込んではならない気持ちであるか、ということをしっかり認識する必要があります。

そして、このギャンブル的な気持ちや感情になっているときこそ、
奇妙なほど、心理の法則にあてはまっているのです。

目先の損をしたくないという気持ち、次勝てばよいんだという短絡的発想、時間
も労力もかけたから取り返すまで止めないという無知な思考。

全て心理の法則にみごとにはまっている、ギャンブラーの典型的な思考パ
ターンです。

先ほども触れましたが、心理は、本人も気がつかない内に、その法則へとは
まりこんでいるのです。

・心理学を知っているのと知らないのではまる違う

もちろん、心理学を深く勉強する必要はまるではありません。

ただ、トレードのとき、人はこういった心理が働く、ということを知っているのと知らないのでは大きな違いがあります。

なぜなら、知っている、自分がそうした行動におちいつているときに、ふと気がつくからです。

「あ、確かこれは、あの心理状態だな」

と気がつくだけでも、そこで人は冷静さを取り戻せるからです。

これからご紹介する、いくつかの心理を学術的に深く知る必要はまるでありませんが、こうした心理が人にはあるということだけは、バイナリーオプションをする上で意識しておきましょう。

・心理用語は冷静さを取り戻す「マジックワード」

さて、心理についてご説明していきますが、その前に少し、例え話をしましょう。

その日トレードをして、仮に「6万円」利益が出たとします。



もう十分に儲けも出た、さらに1日にエントリーする回数(例えば1日に6回が上限と自分ルールを決めて)も上限に達した。

そこでトレードを、セオリーと自分ルール通りに終了するべきですが、「慣れ」が出てきた頃になると、「今日はずいている、まだ儲かりそう」と直感を信じ、トレードを再開します。すると、次のトレードで「4万円損」をしたとします。それでも、まだ、この日の利益は「2万円プラス」で儲けが出ているはずですが、人間の1つの心理として、

「さっき、6万円プラスだったのに、、、取り返さないと、、、」という衝動につい駆られます。

この時点で感情を抑え込める人もいるかもしれませんが、それは本当にごくわずかです。大抵の人は腹を立てたり、悔しがったりします。

何よりも「損をしたくない」(実際は損をしていないのにも関わらずです)という奇妙な感情を持ちます。

おそらく、こうした状況になれば、脳内でも血流が活性化しているでしょうから、気持ちも大きく揺れ動きます。そうすると、せっかちになり、我を失い、さっきの損を取り返そうとして、、、通常の「倍のベット」でトレードをしたりします。

勝つまで倍でするのはマーチンゲールの法則でしたよね。最も愚かな方法です。

こうして、マーチンゲールを使いはじめた時点で、トレーダーではなくギャンブラーになったことを意味します。

たまたま運よく利益が増えることもあります、ほとんどのケースは、ここから負けがはじまり、最終的には全ての資金を失います。

頭の中では分かっている、人間には欲望、損をしたくないという恐れにも似た感情があるので、そこで大きく気持ちを揺さぶられてしまうのです。そして冷静さを欠いてしまいます。

特に人間は、この「損」をしたくないという感情は、心理学的に見ても、とても大きな衝撃のようです。

これを行動経済学の理論に置き換えると、
《**プロスペクト理論**》といいます。

さて、ここで少し考えてみましょう。

人は損をすると大きな衝撃を気持ちに受けてしまう、それはプロスペクト理論なんだ、と、今、あなたは知りましたよね？

だから、もし、目先で些細な損が出たら、心の中で、「プロスペクト理論」と、この言葉を言ってみてください。もちろん口に出して言ってもOKですよ。

大切なのは、この言葉を唱えることです。それが、あなたの心への「マジックワード」となります。



そうすると不思議なことに、その心理用語を心の中で唱えるだけでも、冷静さを取り戻すことができます。

そして、少し冷静になれば、「あ、今、ちょっと損が出て焦っているけど、これはプロスペクト理論の法則に自分がおちいっているんだな」と、さらに自己分析ができて、目先の損にこだわることをやめようと判断できるはずですよ。

では、プロスペクト理論が出ましたので、ここからは、どのような心理用語があるのか、また、どのような場面でそれは役だってくるのか、1つ1つ詳細を知りながら話しを進めていきましょう。

最初は、
今出てきたプロスペクト理論から、さらに詳しく説明しますね。

※注意

個々の理論名を覚える必要はありません。
最後にたった1つ**簡単なマジックワード**が出てきますので、それだけで充分です。ただ様々な心理があることを意識しましょう。

【プロスペクト理論】損を気にしなくなる

「損」

これは誰でも嫌ですよね。もちろん私も嫌です。
トレードをするのに、わざわざ損をしたい人は誰もいません。

しかし、ここでトレードをするにあたって、大前提の事柄を記載しておきます。

どれだけ世界的な天才といわれる人が作った理論であろうと、
世界最高峰のAIによるツールであろうと、
100%勝ち続けるトレードは存在しません。

「負ける確率」は絶対にある、がトレードの大前提です。

これは単純に「損」をするときもあるということですよ。

バイナリーオプションは特に短時間のトレードを何度も繰り返し、
そこで利益を積み上げていくものです。

要は、その「損」をする確率を極限まで下げていく、
というところにセオリーがあるわけです。

そして、そのセオリーを活かすためにも、
少しぐらいの「損」が出ても気にしないでいられる
マインドセットする必要がある、ということです。

目先の「損」を気にしすぎると、自分自身でセオリーを崩していき、
最終的にトータルで確保できる利益をつかめなくなっていくのです。

つまり、自分自身の気にしすぎる心が、負けトレードへと勝手に導いている
のです。

では、なぜ、これほどまでに、「人は損を気にするのか」
ここを、心理学の視点から見てみましょう。

「プロスペクト理論」これは、

米国の心理学者、ダニエル・カーネマン氏とエイモス・トベルスキー氏が
1979年に提唱した行動ファイナンス理論で、利益や損失に関わる意志決定
のメカニズムをモデル化したモノです。

プロスペクト(Prospect)は日本語だと、
「予想」「期待」「見通し」などの意味をあらわしていて、

人間は、予想される利害額や確率などの条件によって
意思決定をしてしまうもので、
合理的に行われているわけではない、

という学説になります。

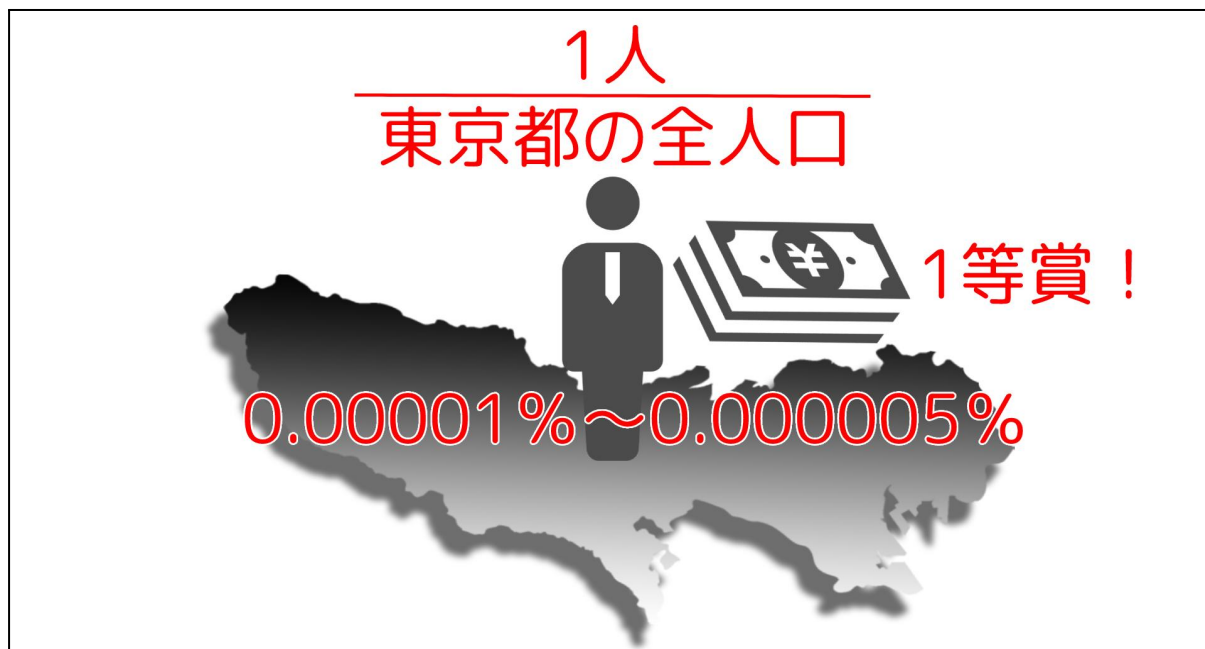
人は、自分の都合の良い勝手な「思いこみ」という、感情や感覚から生じる
「歪み」を伴って、意思を決定し、そのまま行動をおこしてしまうもの、と、この
学説は唱えています。

例えば「宝くじ」です。

発行枚数によって変わりますが、国内の年末ジャンボ宝くじ1等賞の
当選確率は「1000万分の1～2000万分の1」ぐらいとされています。

これはパーセンテージに変えれば「0.00001%~0.000005%」で、さらに、もし人口で考えれば、東京都の人口は約1000万人なので、都民全員が買った中のたった「1人」が1等賞を手にする計算です。

【宝くじの1等賞・当選確率・概念】



さて、こうして先に、これほどまでの低い確率を知らされて、もし人がどこまでも合理的に考える思考回路なら、まず、宝くじなんて買いませんよね？

しかし、実際に多くの人が宝くじを買っています。

ここには、自分の都合の良い勝手な思いこみ、「自分に当たるかも」という「期待=Prospect」が、多くの人を宝くじ購入へと駆り立てているわけです。

さらに理論は、このようにも提唱しています。

【利益を得られるときは「手に入れる」ことを何よりも優先するが、損失が出てしまうときは「最大限避ける」ことを何よりも優先する】

ここから考えると、「人は得をするよりも、損をしたくない」方が、より強く働くということです。

これは、特にギャンブルに例えられています

何かに対してベットするとき、
「倍率が小さく」ても、
最初は「勝てる」確率の「高い」方にベットします。

ギャンブルを開始するときは、まだ何の損も出ていないので、
ここでは、
【利益を得られるときは「手に入れる」ことを何よりも優先】
しているという心理ですよ。

しかしギャンブルを進めていき、やがて「負け」はじめます。
「損」が出てきたというわけです。

そうすると人は、とにかく損をしたくない、
それ以上に、これまでの損も全て取り返したい、
それも1分、1秒でも早く、手っ取り早く取り返したい、
という心理が働きはじめます。

つまりこれは、
【損失が出てしまうときは「最大限避ける」ことを何よりも優先する】
が強くなっている状態ですよ。

とにもかくにも損を一気に取り返したい、
という意識が心の中を満たしている状態です。



さてそうなる、ここでギャンブルをする人が最もよく使う方法を使います。

「倍率の高い」ベットへと切り替えます。
これはつまり
「勝てる」確率は「低く」なったわけです。

最初とは反対の行動に走っていますよね。

そして、一気に取り返す、最も手っ取り早い方法は、
負けた金額の、そのまま「2倍」のベットをすることです。

おや？ 負けた金額を「2倍」にし続ければ最後は勝つ、、、
これって、どこかで聞いた方法ですよ？

そうです、「マーチンゲールの法則」です。

「損をしたくない、損をしたくない、損をしたくない、、、」

合理的な利益追求よりも、損失の方が気になって仕方ない、
というのが「人」ということですね。

しかし、このギャンブルとしての意識を持って、
トレードを行うことほどダメなことはありません。

こうした「プロスペクト理論」を踏まえた上で、
先ほどの「6万円」の例を、もう一度、冷静に考えてみましょう。

その日のトレードでは「6万円」の利益が出ていました。
それも、自分ルールでのエントリー上限回数に達していました。

本来ならここでトレードを終了すべきですが、
「今日はずいている、まだ儲かりそう」と勝手に思い込みました。

トレードをしていれば、必ず、そうした気持ちになる日があります。

もちろん、そこには何の根拠もありません。
(直感を信じすぎる心理は後で出てきます)

本来なら、自分ルールであるエントリーの上限回数が来た段階で、その日のトレードを終了すべきだったのです。

まず、ここが第一の「過ち」です。
(自分ルールの設定に関しても後述しますね)

そして何の根拠もないのに、「今日がついている」この感情を元に、利益が欲しいという「プロスペクト理論」が働きます。

《利益を得られるときは「手に入れる」ことを何よりも優先する》

この心理の法則です。

そして自分ルールを破り、上限回数を超えてトレードしてみたら、やはり次は負けました。「4万円」の損です。

そうすると連鎖反応のように、次のプロスペクト理論、

《損失が出てしまうときは「最大限避ける」ことを何よりも優先する》

この心理の法則が強く働きます。

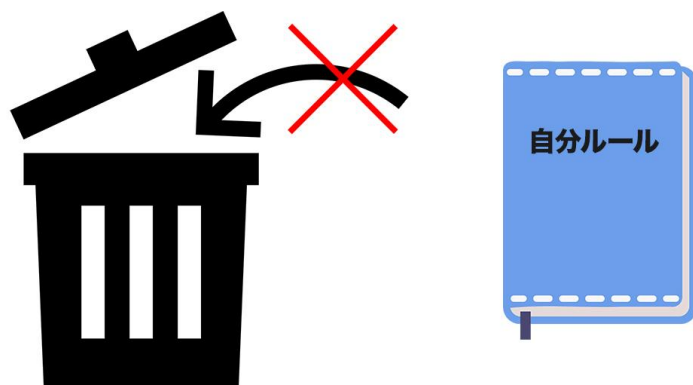
さて、この「6万円」のケースでは何度か立ち止まることが可能でした。

立ち止まる点 ①:「今日がついている」



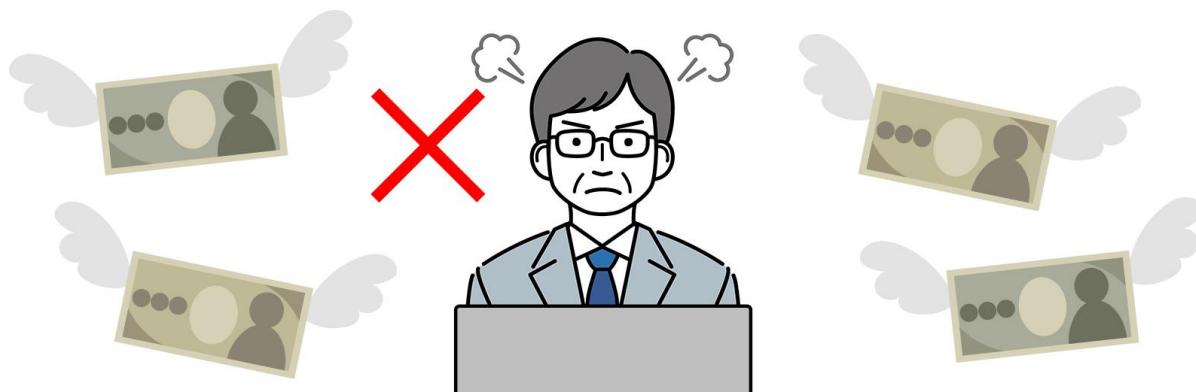
これはまるっきし根拠がありません。ただの気のせいというものです。
こちらは自分ルールにて、いかにして避けるかを説明します。

立ち止まる点 ②:6万円もあるのにさらに利益を欲しがった。



⇒ 単に「欲」ですね。これも自分ルールで対処できます。
利益追求はトレードをする目的であっても、長い目で見て損を出しては意味がありません。目先の欲が生み出すものは破滅だけですよ。

立ち止まる点 ③:さらにエントリーして4万円の損失が出て、
その損失を何とか取り返そうとした。



この例で、最後に重要な点はここになりますね。

ここで「プロスペクト理論」を心で唱えましょう。
そして、より冷静に考えてみましょう。

その日のトレードなら、まだ手元に
「2万円」も、利益が残っていますよね。

そうなんです。“2万円も”、あるのです。
目先の損ばかりを考えることが、より大きな負けへとつながります。

しかし、このような状態になったら、
「あ、今、自分はプロスペクト理論の心理におちいっているんだな」
と考えると、冷静さを取り戻すことが可能になり、さらに、
「今回はここでトレードをやめておこう」という気持ちになって、
その日は利益をだして終わることができるのです。

目先の小さな「損」を気にしてはいけません。

プロスペクト理論は、
「損を気にしなくなるマジックワード」です。



【サンクコスト効果(コンコルド効果)】引き際が決められる

トレードに限らず、ビジネスなど様々な場面において、ある進めていた事柄が、予定通りにいかなかったので、途中で止めなければならない決断に迫られることがありますよね。

しかし、途中で止めようとしても、そこで、

「ここまでですでお金も時間も労力もかけたから、損をしたままでは終われない、、、」

という心理が働くと、いつまでもズルズルと続けてしまいます。

この「引き際」というもののタイミングを見誤ると、さらに損失が大きくなってしまいます。

さて、サンクコスト・Sunk Costと、上記に赤字で記載していますが、これは日本語にすると、埋没費用という意味です。

すでに幾らからのお金を支出または使ってしまい、そのお金に関わる利益分を元のお金も含め、「回収不可能」になってしまった状態を指します。

そして、回収不可能になってしまったお金やそれにかけた労力を惜しみ、そのまま投資を継続したり、その後の意思決定を見誤ってしまう心理状態をサンクコスト効果もしくはコンコルド効果と呼んでいます。

最初のプロスペクト理論でも触れたように、人は何よりも損失を避けたがります。

出したお金があきらめきれず、何とか回収しようとして、逆に、泥沼におちいってしまうのです。

ちなみに、コンコルド効果とも呼ばれている名前の由来ですが、

これは1960年代、フランスとイギリスによる共同で開発が行われた超音速旅客飛行機「コンコルド」での失敗が元になっています。



開発当初は旅客機ながら超音速で飛行でき、またその近未来的な形から話題を呼びましたが、あまりにも巨額すぎる開発コストに採算が取れないことが「途中」で判明しました。

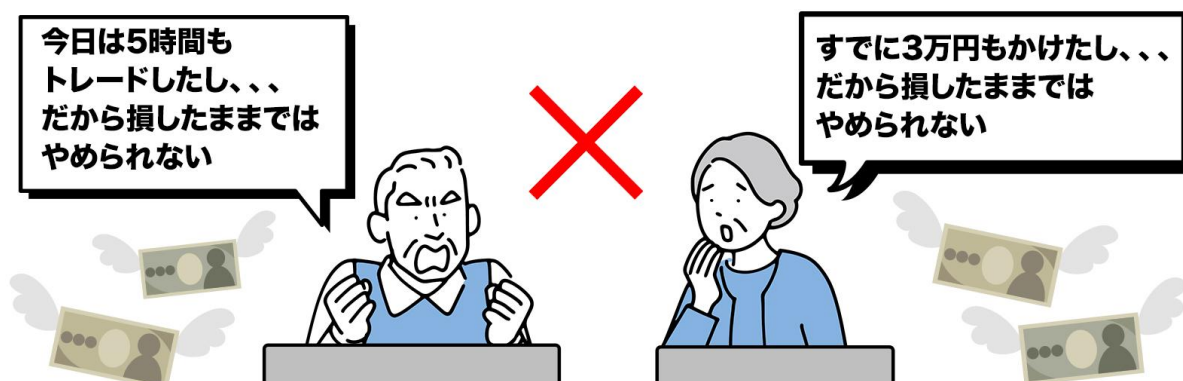
しかし、それまでにかけたお金や時間が無駄になることを嫌がり、開発をズルズルと継続。結果、莫大な損失を出して失敗に終わりました。

これと同じような心理が、人にはあらゆる場面において、起こりがちである、ということです。

もちろん、バイナリーオプションのトレードでも、本当によく起こる事柄です。

「すでに3万円もかけたし、、、」

「今日は5時間もトレードをしたし、、、」



とにかくその日は損をしているとなると、
ここで最初のプロスペクト理論が強く出てきますよね。

とにかく負けが続くと、ついつい勝つまではトレードをズルズルと続けてしま
うパターンです。

そしてそれは、コンコルド開発の歴史的な失敗からも学べるように、
完全に逆効果となります。

下記のことをハッキリと覚えておいてください。
バイナリーオプションは、ただ続けさえすれば利益確保ができるもので
は、決してありません。



自分が浪費した時間に比例して利益が増えていくのなら、誰でも、
ただひたすらに長い時間さえすれば儲かるということになります。
それは絶対にあり得ませんので、それは無益だと知りましょう。
むしろ、こうした心理を作り出さないことが重要となります。

先ほど示した、

「すでに3万円もかけたし、、、」

「今日は5時間もトレードをしたし、、、」

仮に、こうした状況にその日のトレードはなったとしましょう。
その日は「損失」が出てしまった日ですね。

そこでもし、すでに自分ルールで決めたエントリーへの

上限回数を超えていたら、たとえその時点で負けていても、引き際が肝心です。

ここで「サックコスト効果」と心で唱えましょう。
(コンコルド効果でもいいですよ)

一旦、とにかく冷静になれるはずですよ。そして、

キッパリとその場で、その日のトレードは止めましょう。

負けが続いた場合の対処方法は、この後で詳しく出てきます。
ここでは引き際に関する話だけをしますね。

多くのトレーダーが、その日だけのトレード、それも目先の利益確保にとらわれてしまいがちです。

バイナリーオプションは確かに、1回のトレードの時間が短く、すぐに結果が出ます。

しかし、その日負けたからといって、株式投資のように企業が倒産して所有していた株が紙くずになってしまった、というわけではありませんよね？
コツコツと続け、最終的に利益確保ができればよいわけです。

プロスペクト理論のところでも記載しましたが、
100%勝利し続けるトレードは、
どれだけ優れた理論でも、最上級のAIでも不可能です。

その日のトレードが利益の出ないこともあるでしょう。しかし、
1日で全てが終わるわけでもなく、明日もあるじゃないですか。

全体的な視野としては、1月単位での利益を考えるとよいです。

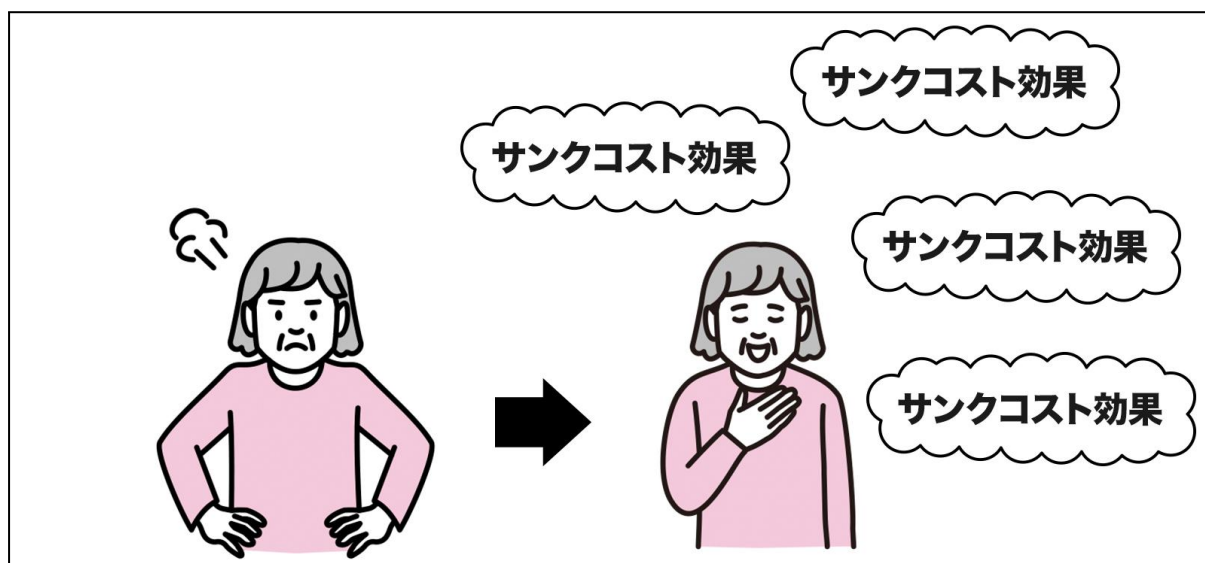
この辺りの資金運用・管理も、後に詳しく説明しますね。

だからこそ、もし、その日のトレードが予定通りにいなくても、

「サックコスト効果」と心で唱え、

泥沼におちいる前に、その1日は、トレードを終了させましょう。

サックコスト効果(コンコルド効果)は、
「引き際が決められるマジックワード」です。



【認知バイアス】思い込みを解消する

「思い込み」ということは誰にでもありますよね？
もちろん、私にもあります。

聞いた事柄や見た事柄、その情報をどのように受け止めたか、
また、その個人の視点の違いで、物事の在り様をかなり歪めて
勝手に想像し、本質とは異なるように捉えてしまいます。

これは、こうに違いない、と。

バイアスは日本語にすると、
「先入観」「偏向」「偏り」といった意味になります。

つまり、人が思考するときや何か判断をくだすときに、
特定の偏りをもたらす思い込みのことですね。

認知バイアスは、現実を直視できなくなる心の動きのことを指している言葉
です。思い込みなどによる要因により、現実を冷静に見ることを
しなくなっている状態です。

そして現実を冷静に見ていないのですから、きちんとした考えができなくなり
判断に誤りを生じさせます。

バイナリーオプションの場合でよく起こることが、自分のクセや、どこかで見
聞きしたことを記憶してしまい、妙に偏った考えにおちいったまま、誤った理
論でトレードをしてしまうことです。

さらに認知バイアスがやっかいなのが、自分自身では気がつくことがない、
という点にあります。

プロスペクト理論やサンクコスト効果なら、学説にもとずいた形での状況が
ハッキリしているので自分でも気がつくことが簡単です。

プロスペクト理論なら「損」をした状況。
サンクコスト効果なら「損が出ていて途中で止められない」状況。

しかし認知バイアスは、そう簡単にはいきません。

何せ、「自分は正しい」という「バイアス」がマインドにかかっているわけですから、これを取り除くことは容易ではありません。
その状況下になっていることすら、わかりません。

そのままの状態でもトレードを続けると、これで正しいはずだ、という考えが基軸になっているので、悪い方向へどんどん流れていきます。

「自分は常に客観的に物事を見ている」と考えている人ほど、認知バイアスになったとき、気がつくことがより難しくなります。

と、まあ、なんだか、ここまで説明するのに、ややこしいことをお伝えしましたが、これはあくまでも認知バイアスというのは、そうしたモノだという概念です。

少し簡単ではなくても、それでも、一度立ち止まってみて、冷静になれる方法はあります。

ここでもやはり、ふと、自分がその状態になっていると感じたら、「認知バイアス」と心で唱えることです。

では、どういったときに、このマジックワードを唱えればよいのか、問題はそこですよ。

実は認知バイアスには、いくつかの分類があるので、その個々の分類に合わせて、どこで一度立ち止まればよいのか説明しますね。

【自信過剰バイアス】

その言葉通り、自信過剰になっている状態での思い込みです。
自分のトレードに対する知識や、また能力を過信すると、たちまち「バイアス」がマインドにかかります。

トレードをはじめて少し知識がつき、また少し勝ちが続くと、自信過剰になるトレーダーがいます。

他にも「自分は常に客観的に物事を見ている」と基本的に思っているタイプの人にも多いかもしれません。

自分は特別だという思い込みですね。

トレードはどこまでも冷徹な考えで行う必要があります。

自分が自信過剰バイアスになっていないか、それを知る方法ですが、

勝ちが続いたときにこそ、立ち止まる必要があります。

さらに付け加えると、勝ちが続き、さらにセオリー以外のトレードもしはじめたら、それは自信過剰バイアスへの入口です。

ここで一度「認知バイアス」と心で唱え、冷静になり、初心に立ち返りましょう。

【正常性バイアス】

正常性バイアスは、リスクを過小評価してしまうことです。

明らかにトレードの場が異常事態になっているのに、そのように感じることなく、「まあ、大丈夫だろう」と、そのままトレードを続けてしまう状態です。

バイナリーオプションでも、トレードをしてはいけない時間というものがああります。セオリーが何も通用しない領域や時間というものが存在します。

こちらは「避けるべき時間帯」で紹介しましたよね。

避けるべき時間帯なのに、自分の勝手な思い込みで、「何だか今日はいけそうだ」とトレードを行うと、ズルズルと負けていきます。

避けるべき時間帯などを気にしなくなりはじめたら要注意です。そこで一度、立ち止まりましょう。

そして「認知バイアス」と心で唱え、リスクのある時間帯、状態を、再びきちんと認識しましょう。

【確証バイアス】

都合の良い情報だけを集めて、それで妙に納得した気分になり、それでトレードをしてしまう状態のことです。

バイナリーオプションで起こりがちなことが、ネットなどに転がる様々な情報を鵜呑みにしてしまうことで、この確証バイアスになりはじめます。

ネットで、こうすれば「簡単に勝てる」といった文言だけを見れば、その情報だけでトレードをしてしまう人がいます。それが手っ取り早く簡単だからです。

一定の理論を無視して、表面的な情報だけでトレードをしても、決して良い結果は出ません。

本CLUBでも、決して「技術」的なことだけでトレードをしてはいけないことを伝えているのも、こうした確証バイアスにおちいらないようにするためです。

ネットで簡単な情報を集めはじめたら、立ち止まりましょう。

ネットで見かける、簡単すぐに儲けられる、といった文言に飛びつきそうになったら要注意です。

そして一度「認知バイアス」と唱え、冷静に情報を振り分けましょう。

いかがでしたか？

個々のケースで違ってはいますが、認知バイアスでも丁寧に状況を把握しておけば避けることのできる心理です。

一度おちいるとやっかいな心理なので、なるべくバイアス状態になる前に、とにかく初心に立ち返ることですよ。

**認知バイアスは、
「思い込みを解消するマジックワード」です。**

【認知的・不協和理論】自分ルールを作り守るために

自分ルールの設定方法は、後に詳しく説明しますが、

ここでは、仮に、そうしたルールを作ることなく、
また、表面的に理論を寄せ集めてしまうタイプのトレーダーが
よくおちいる心理の話をしていきます。

認知的・不協和理論は、
物事の本質をきちんと見ることなく、自分の都合のいいように勝手に
解釈して、歪んだ状態で本質を見ている心理です。

バイアスと少し似ていますが異なります。

バイアスの場合の歪みや偏見は、自分が得た知識などから起こります。

ですが、認知的不協和の場合は、不快な感情から逃れたい、という意識から
起こります。

しかも、その逃れたいという感情が先立っているので、逃れる先が例え間
違った領域であっても気にしなくなってしまうのです。

これがトレードにおいては、どのような場合に起こるか説明しますね。

例えば、自分の期待通りにならない状況、不利な立場、誤った判断をしてい
る場合などは不快感を覚えますよね。

この不快な感情を解消、または低減するために、
自分にとってより心地よい方向に勝手に解釈するのです。

ですが、自分の勝手な解釈なので、よく現実とズレが生じています。
それでも、心理的に負担が軽い方を選んでしまうのです。

例えば、1つの良くない事柄を、

「〇〇だから大丈夫」

「〇〇があるからOK」と、他に理由付けをして、
今、目の前にある問題を何でもないかのようにしてしまいます。

この心理のととてもわかりやすい例として、よく取り上げられる事柄が、

「煙草を吸うと体に悪いですよ」
と聞かされたときの喫煙者です。

そのままの言葉を聞かされると、不快ですよ。ね。
そこで喫煙者は、こう考えます。

「いや、でも、煙草を吸っていても長生きする人もいる」
「交通事故で死亡する人の方が確率が高い」

そう考えると「煙草を吸うと体に悪い」という意識が低減します。
本質である、煙草を吸うと体に悪い、という部分は何も変わっていませんよ
ね。あたかも体に悪影響はないと、言いたげな表現です。

これはつまり、簡単にいうところの言い訳ですね。
それの方が自分が直面している事実から目をそらすことができます。
不快な気持ちから、ただ逃げたいだけですね。

この心理状態が、認知的・不協和理論です。

では、この心理をトレードの場合にあてはめてみましょう。

トレードでよく起こるのが、
負けの確率を一切考えず、自分の予測が当たらなかった場合に
ふと、この心理が起こります。

ここで冷静になり、目先の数回のはずれた予測にばかりとられるのではなく、
もっと広い視野で、これまで順調にいていたことを思いだしたり、もしくは、
一度、基本的にセオリーを見直せば問題ありません。

ここでも大切なのは、冷静になる、ということ。
そして「負けの確率」もトレードにはあるという現実です。

しかし、たかが数回はずれた予測でパニックになると、
認知的・不協和理論の心理が生じてしまいます。

とにかく、今、数回はずれた予測という目先の不快な感情を
何とかして消し去る、もしくは低減したい、と。

そこで、数回はずれた予測を都合よく解釈したくなります。

明らかに冷静さを欠いていますよね。

次に、不快な気分を低減したいので、自分がした選択が間違っていなかった
と思ひ込みたい気持ちになります。

そこで、手っ取り早いのが、ネットで新しい情報を色々と引きずり出すこと
です。ネットは基本何でもありなので、表面的にはそれっぽく書かれている情
報は見つかるでしょう。

そうしてネットから、自分が知りたい安心したい情報だけを見つけ出すと、こ
こで確認する限りでは、ちょっとこうすれば予想通りだった、とか、自分が納
得できる、今の不快な感情をかき消せる考えばかりで頭を満たします。

ここまで来ると、後は、まるで自分自身に言い訳をするように、適当にトレ
ードの方法を、ごちゃごちゃ変えだします。

これは自分ルールをきちんと決めていない場合によく起こります。

なぜなら、最初からルールをきちんと定めていれば、
現実の中で避けようのない「負けの確率」を素直に受け入れることができま
す。

繰り返しになりますが、
どんなトレードでも、例え最高峰のAIがトレードをしても、
「100%」の勝利を続けることはあり得ないのです。

この大前提を意識しないトレーダーほど、
すぐに頭に血がのぼり、むきになってトレードをしてしまうのです。

そして、そこで認知的・不協和理論の心理におちいると、ただただ不快な感情から逃れたいばかりに、都合のよいように、この「負けの確率」という現実を変えてしまいます。

冷静になり、最後のトータルで利益を出せればよいのです。

予想が外れパニックになり、適当にネットでのトレード情報をかき集めようとしたら、ここで、立ち止まりましょう。そして、

「認知的・不協和理論」と心で唱えましょう。

こちらは覚えにくい言葉ですね。最初にも記載しましたが、心理のマジックワードは、最後に1つだけ覚えればよい表現がありますので、この言葉を覚える必要はありませんよ。

とにかく、そうした心理がある、ということだけ意識してくださいね。

また、今回ここで出てきた、自分ルールの設定方法や、連敗したときの対処方法なども、この後で、詳しく説明します。安心してください。

トレードでは、自分ルールを定めることが重要、ということがここでは見えてきましたね。

**認知的不協和は、
「自分ルールを作り守るためのマジックワード」です。**

【ギャンブラーの誤謬(ごびゅう)】確率論の考えを正す

「確率50%」

バイナリーオプションでは「High」か「Low」を当てることなので、理論も何もなければ、この確率が前提になる、というお話は、すでに何度も触れていますよね。

この確率50%という事柄ですが、例えば、

連続して10回「High」が出たとしましょう。
そこで奇妙なことに、人の心理は、

「すでに10回も連続してHighが出たから、次はLowが出るぞ」

と思込みます。

これは確率上の計算としては大間違いです。

次の11回目も「High」が出る確率は50%です。

この、何度か連続したら次は違うことが起こるという心理が「ギャンブラーの誤謬」です。

バイナリーオプションの単純なチャート画面にしろ、またMT4によるローソク足の画面にしろ、何の理論もなく分析してしまうと、この心理におちいりがちです。

チャート画面を表面的にだけ眺め、
どんどん上がっていったら、
「さあ、この辺りで下がる確率が高いな」

今度はどんどんと下がっていったら
「さあ、ここで上がる確率が高いな」

と、確率50%を無視してしまいがちです。

特にバイナリーオプションの場合は、先ほども記載したように、何度も立て続けに「High」が出ることもあれば、反対に、何度も立て続けに「Low」が出ることもあります。

ここで単純なチャート画面だけを眺めていると、勝手に、立て続けに「High(もしくはLow)」だったので、次は反対になると思いこみます。

この感覚で、さらに、ありがちなのが、

何度か自分のトレードの負けが続いたら、勝手に、「すでに連続して負けているから、次は勝ちになる」と、自動的に勝率が上がると思い込むことです。

これも確率上の計算としては大間違いです。

何度トレードをしても、次回勝てる確率は変わらず、「50%」です。

これも見事なまでの「ギャンブラーの誤謬」です。

ここまでも何度も紹介してきた、ギャンブラーが必ずやることの典型例として、

「次は勝てるさ、、、次で取り戻せばいいだけさ、、、」

これを上げてきました。

こう考えだすと、さらに、ギャンブラーの誤謬としての心理、

「連続して負けが続いたから、そろそろ勝つさ」

と、この感覚が芽生えます。

それも、この感覚のときは妙なほど強気な気分になり、毎回エントリーしていた額よりも、2倍どころか、思い切って3倍にしてみたりします。

これは特にトレードをする上において、「資金運用・管理」をしていない人に起こりがちな行為です。

自分勝手に勝率が上がるはずと思い込み、さらにエントリーする金額まで大きくベットしてしまうのです。

もちろんギャンブルの結果というものは、最後は負けていくのです。

こうした状態におちいらなようにするためにも、「資金運用・管理」が重要になるのです。

勝率を上げるのは、このように、単なる連続した回数の問題ではありません。

本CLUBではすでに何度も伝えていますが、確率を上げるのは、理論値に裏付けされた「セオリー」です。

それも単にトレードの技術だけではなく、今、読み進めている、

「マインドセット」と、
「資金運用・管理」、

必ず3つのセオリーが必要なのです。

だからギャンブラーのような、

「ずっと上がっていたから、次は下がるな、、、」

「ずっと下がっていたから、次は上がるな、、、」

「負けが続いたから、次は勝つな、、、」

そんな勘違いの確率が少しでも頭に浮かんだら、

「ギャンブラーの誤謬(ごびゅう)」と心で唱えましょう。

あなたはトレーダーであって、ギャンブラーではありませんよ。

どこまでも冷徹に、セオリーとルールに沿ってトレードを心がけましょう。

ギャンブラーの誤謬は、
「確率論の考えを正すマジックワード」です。

【ヒューリスティック】3つの理論の重要性に気づく

これは、
簡単な言葉で説明すると、「直感」や「経験則」という日本語に置き換えると、
わかりやすいと思います。

心理学的に説明すると、必ずしも正しい答えになるとは限らないが、
それまでの経験などを元に、一足飛びにある程度の正解レベルの結論へと
至る判断方法となります。

計算に基づき論理的に答えを導くことの反対のことで、
経験やある一定の先入観に基づく思考法とも言われています。

何かの意思決定をする場合、結論に至るまでの時間を短縮させる、
というわけですね。

しかし、結論を早めているようでいて、ちがう見方をすれば
「考えることを回避している」状態とも言えます。

ここまでは、なるべく心理学的にそった表現で説明を試みましたが、もう少し
日常での話で説明してみますね。

身近なことで言えば、例えば、
あなたは喉が渇き、ドリンクを1つ買うとします。

ここで1つのドリンクを選ぶのに、誰もコンピューターのような難しい計算はし
ませんよね？

何故、今、体がどのような状態だからドリンクが必要なのか？
その美味しさはどのレベルのモノが必要なのか？
飲むことにより体への影響、喉の渇きを癒す度合、栄養分は、、、

と、いちいち、こんなことを細かく分析しながら、ベストなドリンクを
選び出そうとはしないはずです。

個人差はあるにしても、以前飲んで好きなドリンクとか、これ美味しそうとか、喉が渴いているからこっちな、とちょっと考えただけで選びますよね。中にはかなり迷う人もいるでしょうが、それも別に何かコンピューターのように計算や演算をして、考えているわけではないですよ。どっちにしようかな、と考えている程度に過ぎません。

このように、ヒューリスティックということに関して話しをすれば、「直感」「経験値」を使った、物事を選択をごく簡単に、そして時間を短縮している状態です。

もし人の脳でヒューリスティックが一切働かない状態になると、絶えずとてつもな考えや計算を脳内で行うことになり、そのエネルギー消費は膨大なモノになります。

実は、考えるために脳を使うという行為は、私たちが想像する以上に、エネルギーを消費しているのです。

そうした無駄な範囲でのエネルギーを消費させないようにするために、思考活動があまりにも過大すぎると、ある一定レベルで停止させようとする機能が、脳内には備わっていると言われています。

こうしたことから考えると、ヒューリスティックそのものは、私たちの日常になくてはならない思考パターンということになります。

では、これが何故、トレードをするときに、またどのような状態だとやっかいになるのか、ということですよ。

日常でのヒューリスティックと違い、トレードで「直感」や「経験値」だけに依存しすぎると、セオリーをないがしろにして、やがて正確性が失われていくからです。

これはさらに、たやすく自信過剰バイアスにまでつながっていきます。

もう少し、トレードにおいて、ヒューリスティックの心理はどのように作用するのか、個別のパターンにわけて説明してますね。

【技術理論だけに頼るトレーダーによく見られる】

運任せのギャンブラータイプのトレーダーは、ヒューリスティックを当てはめるのもバカバカしいほど、勘だけを頼りにエントリーしているので、もはや問題外です。

トレーダーのタイプで言えば、これは、「技術的な理論だけを頼りに」トレードする人は、ヒューリスティックが強く働きやすい傾向にあります。

技術理論を得るところまでは良いのですが、ここで問題なのが、「技術理論だけ」しか得ようとしません。

そうすると大抵のケースにおいて、

これまで得た情報や知識を元に、
簡単に取り出せる範囲
もしくは強く記憶に残っているモノだけで
エントリーを繰り返し、
最後は「直感」を頼りにしていきます。

特に、トレードにある程度慣れてきて、少し勝ちが続いていると、この心理はより強くなっていきます。

最初は技術的理論でトレードをしていたはずなのに、
なぜか、最後は「直感」でのトレードへと姿を変えていき、
そのみが最終判断基準になってしまいます。

トレードにおける、ヒューリスティックがやっかいなのが、

ここの部分です。

なぜ、こうしたヒューリスティックの心理になっていくのかですが、先ほども少し触れましたが、技術的な理論だけしか習得しようとしないうちに、ここにつきます。

つまり、「マインドセット」と「資金運用・管理」の2つが欠けているのです。

技術的な理論を知ったのはいいが、それのみが暴走している、といったイメージを持ってもらうと、わかりやすいかもしれませんね。

もう少し具体的な例で話すと、ネットでバイナリーオプションのことを調べていたら、「これで確実、儲かる」といった言葉にひきつけられた。ここで冷静になって考えればよいのですが、ヒューリスティックの心理が働き、情報に飛びつきます。ここで、直感で、あ、これ良さそうとなると、それまでの合理的ではあるが地味な理論を全て捨て、今、目に入った情報と自分の経験値をかけあわせ、なんとなく、これでいけるんじゃないか、と思い込みます。

後は直感で、簡単に取り出せる範囲だけの情報に頼り、判断をしてしまう、こうした状態を「利用可能性ヒューリスティック」と言います。

また他にも、代表的なモノほど過大評価をしてしまう場合があります。これは、偏見や、イメージによる決めつけといったことです。

これも、ネットで大々的に派手に宣伝していて、話題性が先行した情報が飛び込んでくると、つい、そこに飛びついたりします。

こうした状態を「代表性ヒューリスティック」と言います。

簡単そうだったり、派手に目立って何となく良さそうと思うのも、ヒューリスティックの心理が働いている状態です。

それは決して合理的な判断ではないので、ご注意ください。

ネットあたりで簡単に手に入るような情報を目にして、直感で物事を判断しそうになったら、そこは一度立ち止まらしましょう。そして、

「ヒューリスティック」と心で唱えましょう。

技術的な理論から直感でトレードをしてみても、決して良い結果にはつながりませんよ。

ヒューリスティックは、
「3つの理論の重要性に気づくマジックワード」です。

【直感型の天才トレーダーはほぼいない】

ここまで「直感」という言葉が出てきたので、直感に関して私なりの考えを補足しておきますね。

慣れてきて、また、それなりに勝ちが続いたトレーダーは、やはり、自信を持ちます。

そうすると、自分の直感がトレードの勝率を上げる一番の武器だと無意識に思い込みます。

これは、自信過剰バイアスになっている危険性もありますね。

確かにそうした直感型のトレーダーがいないわけではありません。

まったくの否定はしませんが、直感だけで勝てるトレーダーは、本当に天才肌の、ごくごく一部の人間です。

例えるならば、野球のメジャーリーグでエース・ピッチャーになれるぐらいの割合です。

プロスペクト理論のときに記載した、宝くじで1等賞を当てられる割合が「1000万分の1」で、全東京都民の中から一人でしたが、メジャーリーグのエース・ピッチャーともなると、全世界の中から目指してきた中から選ばれた一人ですよ。

それぐらいの割合ということです。直感型の天才トレーダーは。

なので、
ヒューリスティックな直感型のトレードはやめておきましょう。

【心理的リアクタンス】禁止行為を素直にしなくなる

この心理はトレードに限らず、ふとした日常で、誰にでも見られることだと私は考えていますので、ご紹介しますね。

心理的リアクタンスとは、
「それはしないでください」と言われると、
逆に、その行動をしてしまう心理のことです。

あなたも覚えがありませんか？

リアクタンスは日本語に訳すと「抵抗」を意味するのですが、
人は他者から何かを強制されたとき、なぜか自然と
反抗したくなる気持ちを持ちます。

そして多くの方は、
禁止、してはいけない、と行動を制限されたことに対して、とにかく
その反対のことをすることそのものに奇妙な喜びを感じます。

これはもはや人の心理というよりは、脳内にそうした快楽物質が含まれている
のではないかと思えるほど、人は、

「それは絶対にしないでください」

に対して反対の行動を起こしたがる傾向にあります。
(脳内でドーパミンが分泌されているのかもしれませんがね)

しかも、それが良い結果にならないとわかっているのに、
ついつい、してしまうのです。

古くは、有名な昔話でもあるように、

浦島太郎の玉手箱、
「それは開けないでくださいね」

(そんなモノをお土産に上げる理由も不明ですよ、、、)
そう言われて、結局、太郎さんは開けてしまいました。

鶴の恩返しでもそうですよね。
「ふすまを開けないでくださいね」
そう言われた人は、結局、開けてしまいました。

典型的な心理的リアクタンスですね。

結果はどれも良いモノでは終わりません。

「開けてはいけません」
「してはいけません」

本当に、その先には身の破滅しかないのです。

トレードでも同じです。

「マーチンゲールの法則をしてはいけません」
と、私はお伝えしています。

そうすると、それに対して反発、もしくはこの反対の行動を起こすことに奇妙な喜びを見出し、マーチンゲールでトレードをしてしまう人が出る可能性があるのです。

マーチンゲールの他にも、いくつかの禁止行為もお伝えしてきました。

中にはギャンブル的に手っ取り早く稼げるのではないかと、勘違いしてしまうような手法もあります。

ですが明確に言うておきます。

禁止行為として明記されている手法はどれも、決して利益につながることはありません。

「してはいけません」と行動制限されたから、
「よし、ならしてやろう」などという行動は、

もはやトレードとは何の関係もない行動原理ですよ。

利益を出すことが、唯一かつ、最終の目的であるはず。

一時の脳内から分泌される(であろう)奇妙な快樂物質を
味わうためにすることでは決してありません。

してはいけないことは、してはいけません。

それは間違いなしに「玉手箱」なのです。
浦島太郎が一気に年老いて人生の終焉を迎えたように、
あなたに待っているのは、トレードの終焉です。

禁止行為を破ろうという気持ちが少しでも芽生えたら、
「心理的リアクタンス」と心で唱えましょう。
そこで、きっぱりと止めましょう。

**心理的リアクタンスは、
「禁止行為を素直にしなくなるマジックワード」です。**

◆人間のネガティブな3つの感情

ここからは、トレードに関わらず、人なら誰しもが持ち合わせる3つのネガティブな感情についてお話をします。

それは、

→「プレッシャー」

→「欲」

→「恐れ」

こちらになります。

心理学といった難しい領域の話ではなく、日常の社会生活において、誰もが何度となく色々な場面で感じる心理ですよ。

トレードにおいても、こちらの3つは、なかなかやっかいな心理となります。きちんと意識しておきましょう。

【プレッシャー／Pressure】

ここで、あなたに質問です。

ハイロー(HighLow)のデモトレードはしてみましたか？

結果はどうでしたか？ 少し当てましょうか？

意外なほど勝ちませんでしたか？

実はデモトレードをすると、ほとんどの人が面白いように勝ち続け、目に見えて利益を上げることができるのです。

しかし、これが実践のトレードとなると、途端に勝てなくなるのです。

デモトレードでは実際にお金を失うリスクがまるっきりありません。何のプレッシャーもない状態で気楽にエントリーしているから、面白いように勝てるのです。

また気楽にしているというのは、ストレスがなく、例のエントリーへの誘惑がそれほどありません。

気楽にトレードをするというのは、自然と勝ちを導くのです。

しかし、これが一たび実践のトレードとなるとそうはいきません。

どれだけ勝率を上げるためのシステムツールを得ても、それは決して100%ではないのですから、絶えず、予想が外れた場合はお金を失う、というプレッシャーがかかります。

デモトレードのときにしていたような気楽さはなく、その都度、1回のトレード結果をやたらと気にするようになります。

気にするどころか、1回負けただけでも、むきになり、必死に損を取り戻そうと、トレードへの異常な執着が生じます。

またプロスペクト理論の話がここでも出てきますよね。損をしたくない、この気持ちです。

そうすると、それがさらに大きなプレッシャーとなり、冷静な判断が曇ります。

お金がかかる以上、プレッシャーは多かれ少なかれかかります。

しかし、そのプレッシャーを「ほどよい緊張感」にかえることができれば、良いトレーダーになれます。

ではプレッシャーをほどよい緊張感にかえるには、どうするのかですが、それが現時点でお伝えしている

「マインドセット」そのものです。

そしてマインドセットに欠かせないモノの1つに、
「自分ルール」があります。

自分ルールの設定の仕方、またどのように実践するのかは、この後お伝えしますので、安心して下さいね。

ネガティブな3つの感情の話しを続けましょう。
次は「欲」に関してです。

【欲／Greed】

トレードをする目的は、もちろん誰もが「利益」を手にする事です。
それ自体は何も悪いことではありません。

しかし、ここで注意すべき事柄は「欲」です。

特に意識すべきは「強欲」です。

トレードを行っているとき、
この強欲にいきつくと、あっという間に破滅につながります。

「手っ取り早く、それも大きくお金を稼ごう」

この感覚です。

「多少リスクがあっても当たり前」
「負けても、次に大きく勝てばいいだけだ」

ギャンブラーの方々がいつも言うセリフです。

損失が出ていても、最後には勝てるつもりです。
強欲が目曇らせています。

そして最悪なパターンは、禁止事項でも平気でやるようになります。

「勝てばいい」

もはやこの状態ですね。

成功しているトレーダーは誰もが「欲」と上手に付き合っています。
単純な話です。

「欲張り過ぎない」

それにつきます。

とにかく淡々と、安定的に、そして長期的な視野での利益確保を行っています。

本CLUBでもお伝えしているセオリーも、あくまで月収100万円ペースを目安にしています。いきなり何百万円とか、1千万円とかのお金を、一気に稼ぎ出そうなどということは、絶対に考えてはダメです。小さな利益を上手に、ゆっくりとした時間の中で、上手に増やしていきましょう。

強欲を制するためにも、この後の項目で出てくる、「資金運用・管理」ここをしっかりと習得してくださいね。

お金というものは面白いモノで、きちんと目に見える形で管理して上げると、不思議と自分の中の欲とも、バランスが取れるようになりますよ。

【恐れ／Fear】

さて、3つ目の心理ですが、恐れとなります。

これもプロスペクト理論などに関係する心理になるのですが、

つまり、お金を失うことへの「恐れ」です。

成功しているトレーダーの人たちがよくクチにするのが、「ポジティブ過ぎるのはダメだが、ネガティブはさらにダメ」ということです。

悲観的過ぎたり、絶えず強すぎる緊張感を持ってしまうことです。これはすぐさま、恐怖心にとられることとなります。

あまりにも大きすぎる恐怖心は、やはり、冷静な判断を見失うこととなります。

せっかくのシステムツールによる単純なサインが、正しいのか誤っているのか徐々にわからなくなっていく、最後に決めなければならないエントリーの絶好のタイミングを逃すこととなります。

恐怖も制御する必要があります。

これは最初の心理・プレッシャーとも通じることなのですが、「ほどよい緊張」を自分に保つことです。

しかしそれが簡単にできれば世話がない、といった声がかここで聞こえてきそうですね。

安心して下さいね。
もちろん恐怖心を制御し、ほどよい緊張を保つ方法はありますよ。

この「恐怖心」というものが、どこから来るのか、まずその元になっている事柄から説明しますね。

恐怖心の元になっているもの、それはズバリ、「お金」です。

お金を失うというこの1つの事柄が、直接の原因で、それ以上でも、それ以下でもありません。

先ほども触れたように、トレードをする目的は確かに「利益」です。

ですが「プレッシャー」にしても「欲」にしても、そして「恐怖心」にしても、心に負荷をかけるのは、お金が作用しています。

「欲」の部分で、
トレードをする目的は「利益」だと私も伝えました。

ですが、ここにもう一文、私は付け加えます。

「お金だけが目的ではない」、と。

いくら利益を得るためにトレードをするとはいえ、
それこそ、生活費の全てをかけて行うことではありません。

利益追求でありつつ、トレードは自分の趣味である、
ぐらいの心持ちが良いです。

そして、そのマインドセットする最も確実な方法は、

「多額のお金を一気にかけない！」

ここに付きます。

先ほども記載しましたが、生活費をかけるほどの無茶な金額でトレードをしてしまうと、一気に恐怖心があらわれます。
何せ、もう後がないわけですから。

まさしくこれはギャンブラー状態です。
そこまで行くと「プレッシャー」「欲」「恐怖心」
全てに飲み込まれていきます。

最初の投資金額は少額の「数千円～1万円」ほどが良いのです。

これぐらいの金額のトレードでも、きっちりと利益を出すことは
可能なのですから。

もちろん、少しばかり生活に余裕のある人は、「2万円～3万円」とかで
トレードをしても大丈夫ですよ。

最初のエントリー金額の感覚値としては、
「1月に使える自分の小遣い程度」がいいでしょう。

これで負けても、ちょっと1月程度、美味しいモノを食べるのを我慢すればいいぐらいです。

また、次の月にはトレードが再開できます。

このように、身の丈に合った少額のお金でトレードをすれば、
自然と心にゆとりが生まれます。

負けても、まあ、そんな時もあるかな。程度で済みます。

少額のトレードではじめれば、何の恐れを抱く心配もありません。
これが簡単で最も確実な「恐れ」の制御方法です。

実は、成功しているトレーダーは、お金が最大の目的ではなく、
ゲーム感覚でしている人が意外なほど多いです。

さすがに私は、ゲームとまでは言いませんが、それぐらいの気楽な感じという
ことです。お金への執着がそれほどないのです。

それが良い結果へとつなげているのです。

さらにもう一つ言えることがあります。それは、

「100%勝つトレードは存在しない」

このことも忘れないようにしましょう。

これは最初に紹介した「プロスペクト理論」から、
すでに何度も触れたことではありますが、

ここはしっかりと意識しておきましょう。

どれほどの優秀なシステムツールを使っても、世界最高峰のAIを使っても、100%トレードで勝つということは絶対にあり得ません。

だから⇒ **少々損をしても気にしないことです。**

そうして、また最初の心理プロスペクト理論へと立ち返るわけですが、「人は何よりも損をすることを嫌がる」ことを知り、ここをきちんと制御しましょう、というのがマインドセットです。

この心理を制御することが、「プレッシャー」「欲」「恐れ」の制御にもつながるのですが、

最初から負ける可能性をきちんと意識していれば良いだけです。

100%はない、と。

とにかく最初から少しぐらいの負けを想定内とすれば、心への負荷は大したことにはなりません。

そして何よりも「少額」なら、

「プレッシャー」「欲」「恐れ」もなく、

絶えず落ち着いてトレードできます。

◆簡単なマインドセット・5つのポイント

さて、ここまで、各心理と人なら誰でも持つごく自然なネガティブな感情について見てきましたね。

おそらく、確かにそうした心理が働いているときがあるな、と、幾つか感じたはずですよ。それは人としてごく自然なことなので何も問題はありませんよ。

ただ、トレードをするにあたり、そうした心理が自分の行動をおかしな方向へと導いてしまう要因になっている、という事実はきちっと、知っておくべきです。

これは知っているだけで、どの時点で自分が、そうした心理状態になっているのか正確に見極めることが簡単になるはずですよ。

自分がもしトレードにとってマイナスの感情になっても、そうした心理に自分が今なっている、と見極めさえできれば、後は、「マジックワード」を心に唱えるだけでいいんです。

心に唱えてもいいですし、口に出して言うてもいいですよ。それだけで驚くほど冷静になれますからね。

冷静になること、ここを忘れないようにしてください。

そして、ここからは、いよいよ、もっと具体的に、目に見える形でのマインドセットの方法をお伝えしていきます。

各心理では、自分がネガティブな状態におちいったときの対処方法といった話でしたが、今からお伝えするのは、自分から予め設定しておく方法です。

これまでもたびたび出てきた「自分ルール」といった言葉があったと思いますが、それらの具体的な設定方法です。

「誘惑を簡単にはねのけ、的確なタイミングを冷静に待つことができ、慣れても自分のペースを崩すことのない精神状態を作り上げる」
ことがマインドセットの目的です。

その方法は別にかなり特別な知識を学ぶといったことではありません。
どれも簡単にできることばかりで、心理の部分と同じで、
大切なのは、この事柄を知ることです。

知った上で、後は、淡々と実践するだけです。
実践することも、どれも難しいものは1つもなく、
忘れさえしなければ、とても簡単にできますよ。

覚える必要も一切ありませんので、忘れることが心配な人は、
紙に記載してプリントアウトするという方法でもいいですし、
このPDFを見ながら、トレードしても大丈夫ですよ。

では、ここからマインドセットを行う方法を説明します。
下記5つのポイントを、必須ルールとしてください。

《マインドセット・必須ルール5ポイント》

- ① 各セオリーを理解するまではデモトレードのみ
- ② エントリー条件が揃わないときはトレードしない
- ③ 2回連続負けたら一度チャートから離れる
- ④ 目標金額に達したら出金を行う
- ⑤ 自分ルール表を作成し心で唱える

①から順に解説していきますね。

① 各セオリーを理解するまではデモトレードのみ

このマインドセットの項目にくるまでに、
バイナリーオプション、ハイロー(HighLow)、そして、
チャートを見るためのMT4に関する知識を伝えてきましたね。

しっかりと全てに目を通し、そして理解しましたか？
順番に本CLUBを進めていけば、難しいことは何もないと思います。

そして確かに私も、上級編の項目で、
「より早く上達するには本番トレードが最も良いです。
デモトレードと違い緊張感が圧倒的に違いますからね」
と記載をしましたが、それはあくまで、セオリーとルールをきちんと把握した
上での話です。

そしてハイロー(HighLow)によるバイナリーオプションは、
その手軽さからも人気のあるトレード手法の1つです。
しかしだからといって、理論無視、ルール無用で、カジノ・ギャンブルのごと
く、「HIGH」か「LOW」に賭けていけばよい、というわけではありません。

トレードで利益を確保するには、必ずきちんとしたセオリーとルールが必要で
す。

それらをしっかり理解した上でトレードを行ってこそ、本CLUBでお伝えしてい
る月収100万円が目指せるのです。

- ハイロー(HighLow)に関して理解しましたか？
- MT4に関して理解しましたか？
- システムの「基礎編」と「上級編」は理解しましたか？

もちろん、まだこの時点で実践トレードをしてはいけません。
マインドセットに資金運用・管理を理解する必要もあります。

そして、60秒コンプリートサインPLUS+の方法を読んだけど、

「頭では理解できたけど少し不安だな」
「操作方法をもう少し練習したいな」

と少しでも感じたら、デモトレードを続けてください。

あわてることは何ともありません。むしろ、あわてると失敗しますよ。

セオリーを守ってスムーズにトレードができなければ、この先、全ての事柄がずれていきます。

マインドセットを行うにも、ベースとなるエントリー方法があやふやでは、意味をなさなくなります。

エントリー方法がわかって、マインドセットがなければ、意味をなさなくなります。

せっかく高確率でトレードに勝っても、資金運用・管理があやふやでは、意味をなさなくなります。

引き続き、この後の項目で「リセット方式」を使用した、資産運用と管理の方法を紹介します。

毎回、同じセオリーでトレードをしますので、一度読んだけど、もう覚えてないな、という感覚ではダメですよ。

セオリーをきちんと理解してから、本トレードに進みましょう。

どうしても気になることがあるときは、「サポート」にご連絡しましょう。

② エントリー条件が揃わないときはトレードしない

さて、2つ目のポイントですが、上記のサブタイトルで記載した通り、とにかく「エントリー条件が揃わないときはトレードをしない」ここを必須ルールとして守ってください。

が、しかし、なぜか、エントリー条件が揃っていないのにも関わらず、多くの方はトレードをしてしまいます。

ここは、各心理にいたる個所まで延々と出てきている、精神への「誘惑」のことですよね。

トレードをしている時間より、待ち時間が長い。
全てはここに精神への誘惑の原因があります。

ここへの対処方法ですが、これは私が作った言葉なのですが、「**外面的対処**」と「**内面的対処**」大きく分けると2つあります。

ここではまず、外面的対処をお伝えしますね。

【エントリー条件外でのトレードをしない、外面的対処】

- 1日のトレード時間を決める
- 週行う日数を決める
- エントリー回数の上限を決める

時間、回数を「見える化」してください。

人の行動原理は不思議なもので、基準値というものを視覚的に確認できるようになると、なるべくそれにそって行動しようとしています。

「見える化」という言葉は、今ではごく当たり前になっている世界規模でのエコ活動(CO2排出を数値で見ると)などでも使われているので、多くの方がおそらくご存知だと思います。

元々は、「目に見える管理」としてトヨタ自動車が、
業務の改善活動の観点から派生した言葉とされています。

一流企業やエコ活動からもわかるように、
「見える化」の効果は、科学的データからも明確になっています。

英語にすると「Visual control」と訳されるのですが、
「control=コントロール」からもわかるように、
行動原理を巧みに制御するのに効果がある、ということです。

そして、
トレードにおいても、それは同じです。
自分が行うトレードの日数や回数を見える化してください。

特に1日の「エントリー回数の上限」ここを意識してください。

1週間に行うトレードの回数や、1日にする時間は、少々変更があっても
大丈夫ですが(基本は同じですよ)、
「エントリー回数の上限」ここだけは変更しないでください。

エントリー回数上限より、少ない分には何の問題もありません。
自分が、もう十分に利益を出せたと感じたら、時間内でも、回数上限に達し
ていなくてもトレードを終了してください。

でも、「上限回数」を超えてトレードをすることは、
絶対にしないでください。

プロスペクト理論の個所などで出てきた、「今日がついている」などという曖昧で何の論理的根拠もない感情で上限を超えてはいけません。
そうしたことを制御するためにも「回数上限」を設定します。

こうして回数を「見える化」するだけでも、エントリー条件外でのエントリーへの誘惑は、ぐっと減ります。

少し話しはそれますが、ここで、初心者や慣れているに関わらず、誘惑に負けて自由気ままにエントリーを繰り返してしまったトレーダーがかかってしまう、ある精神ダメージの話しをしておきます。

トレードをする人たちの間では、それは、**「ポジポジ病」**と呼ばれています。

これは、常にベットし続けていないと不安で、狂ったように、とにもかくにも常にトレードをしてしまう精神状態のことです。

簡単に言えば、トレード中毒です。
これはギャンブル依存で、れっきとした病気の一つです。

ここまでいくと、利益確保が目的ではなく、トレードそのものをしていくことへの中毒症状なので、全財産が無くなっても、自分ではもう止めることができなくなります。

中毒は専門家のもとでしか更生することは不可能です。

私が、何度も、しつこいぐらいに繰り返している、
トレードはギャンブルではない、という言葉も、
こうした最悪の事態に誰もおちいて欲しくないからです。

ポジポジ病にならないように、エントリー条件が揃っていないときは、絶対にトレードしないでくださいね。

本CLUBでは、トレードで月収100万円を目指すために、「トライアングル・セオリー」をお伝えしています。

負ける確率が低減できるのは、あくまでセオリーを守ってトレードをしたときのみです。しかしそこを無視して、目先の感覚だけでトレードをしてしまえば、もはやそこには理論も何もありません。

ただのギャンブルです。

しっかりとセオリー通りに最適な瞬間を「待つ」ことが大事です。また、負けたときに手っ取り早く取り返そう、という考えになることもダメです。上限回数とルールを守りましょう。

バイナリーオプションに限らず、株やFXなどで最終的に利益を上げている人たちは皆、「最適な瞬間」を良く心得ています。

ここの見極めができる人だけが利益をつかめるのです。

そして最適な瞬間を待てるようにする外面的対処が、「見える化」です。

エントリー回数の上限をきちっと決めてくださいね。

そして続いて、もう一つの「内面的対処」ですが、、、

これに関しては「マインドセット」のまとめの章として位置づけた、

《今日トレードしますか？ なら「Chill out」》

こちらでお話しますね。

さて、ルールの話しを続けましょう。

③ 2回連続負けたら一度チャートから離れる

1回の負けで感情的になる人は少ないですが、「2回連続」で負けてしまうと、感情的になり、「倍以上のベット」でトレードをしてしまう傾向があります。

すると、3回目のトレード以降から、お金を減らし続ける、負のスパイラルにたやすく陥ります。

これは絶対に避けなくてははいけません。

ここで、対処法としては、2回連続で負けたら、「一度チャートから離れる」というルールを守りましょう。

3回連続で損をしてからチャートを離れるという方法でも良いですが、ほとんどの人は「2回連続」で負けると感情的になります。

焦り、恐れ、早く何とかしなければ、、、という感情です。

だから、2回連続で負けたら一度チャートを離れたほうが良いです。

チャートから離れることにより、頭を一度、冷静にできます。ここでも大切なのは、「**冷静になる**」ですよ。

何でも良いので、気分転換をするといいいでしょう。10分～15分ほどでよいので、モニター画面をオフにして、コーヒーを飲む程度のことです。

時間のあるときは、いったん、いつも決めている時間とは別の時間にトレードを試してみても良いです。ちょっと散歩したり、軽くご飯食べたりすることも効果的です。

とにかく頭に血をのぼらせて、負けを取り返そうなどと考えるてはいけません。

「負け」なるものを「取り返す」

という発想自体が間違っているのです。

これも何度かお伝えしていますが、最終的にトータルで利益が確保できればよいのです。

その日が負けで終わっても何の問題もありません。

それに、本CLUBが使用する60秒コンプリートサインPLUS+からすれば、画面をくいいるほど見ているからと言って、そう何度も調子よく、都合のよいエントリー・ポイントが現れるわけではありませんよね。

10分や15分ほどチャートから離れても何の問題もありませんし、また、チャンスが逃げていくわけでも何でもありません。

チャンスは、必ず、何度でも訪れます。

その日の内に、何とかして負けを取り返そうとして、セオリーも自分ルールも無視して、何度もエントリーすると、より負のスパイラルにはまりこむものです。

2回連続して負けたら、とにかくチャートから離れましょう。

ここを、しっかりとマインドセットしてください。

④ 目標金額に達したら出金を行う

「目標金額」に達したら「出金」を行ってください。

中には、
「出金せずに、そのまま資金を数千万や億稼げればいい」
という考え方の人もいます。

しかし、もし、この出金を、
定めた目標金額がきても、いつまでも行わないと、
必ずと言ってよいほど、精神バランスが崩れます。

人は、お金の額が大きくなればなるほど、
それに正比例して、精神の制御が困難になっていきます。

多くのトレーダーは、10万円から100万にすることはできます。

しかし、100万円から1,000万にすることが難しいのです。

理論上は、資金を同じ10倍まで増やす、ということですが、
金額の大きさに比例して、精神へのダメージは大きくなる、
ここを忘れてはいけません。

ここも少し、例えでお話ししますね。

10万円の元資金からはじめたトレーダーがいたとしましょう。
そして元資金の「10%」を毎回のベット金額としてトレードをします。

最初のベット金額は「1万円」程度ですよ。

いくら本CLUBが目標としていることが月収100万円を目指せるとはいえ、100%勝利するトレードは存在しません。

時には負けることもあるでしょうが、それでも、きちんと3つのセオリーを淡々とこなしていけば、全体を通して勝ちこしていくはずです。

徐々に総額の金額が増えていくので、それに合わせて、ベット金額も上げていきます。

(ベット額の設定や運用方法は、次の項目【資金運用と管理】で詳細をお伝えします)

何せ元資金「10万円」からスタートしています。

この時点では、1万円でも損をしたくないという心理が働きかけ、慎重に物事を運ぶものです。

こうした緊張感と慎重な行動が、実は、マインドセットにとってとても重要なのです。ルールを崩すことなく、セオリー通りに丁寧にベットを重ねるからです。

しかしある日、気がついたら、元資金10万円だったものが、総額で「200万円」になっています。

さて、200万円という資金になったので、最初と同じように資金の10%をベット金額として再びトレードをします。

200万円の10%、つまり「**20万円**」を一度にベットするのです。

おそらく、一度や二度ぐらいは勝つでしょう。

しかし、ここで問題なのは、一度でも負けたときに起こります。

何せ「20万円」という金額が一瞬にしてなくなるのです。

せっかく順調に、コツコツと「200万円」まで到達したのに、毎回、毎回、「20万円」もの金額を当たり前のようにベットするなど、どこかで精神に大きな歪みがおきていきます。

それは、

「20万円」を1.95倍増やすことも、
「20万円」を一度に失うことも、

当たり前という感覚におちいつているのです。

よいですか、ここをよく思い出してください。
元資金は「10万円」ではじめた人ですよ。

そんな人が、
一度で「20万円」を失っても当たり前、なんて精神状態、
あきらかに、もう、おかしいですよ？

最初は、それこそ慎重にベットしていたはずなのに、
「もっといける、、、まだいける、、、さらに儲かる、、、」という、
奇妙なほどの「加速度的マインド」におちいつていきます。

この加速度的マインドもお金に正比例なのです。
金額が大きくなればなるほど、なぜか人は、
もっといける、まだいける、という感覚がどんどん加速するのです。

一番、ダメなのが、
「20万円」失っても、どうせすぐ取り返せる、などという
勘違いをしはじめることです。

このマインドがわずかでも、あなたに芽生えたら、
あなたはその時点で、ただのギャンブラーとなりはてています。

そうなった時点から、全ての崩壊がはじまるのです。

繰り返しますよ。
元資金10万円ではじめた人ですよ。ベット金額は10%の1万円。

例え負けたにしろ、「1万円」という金額なら、
まだ人は冷静でいられるものです。

しかし、一瞬にして20万円ものお金を失って、
冷静にいられるものでしょうか？
しかも、すでに加速度的マインド状態の中で？

いえ、すでにこの時点で、冷静さは失っています。

そうすると、徐々に負けが続きはじめます。

20万円を損したので、その20万円も取り返そうと、
ムキになります。あわてます。パニックになります。
そうすると頭に血がのぼり、冷静さを失い、さらに負けます。

もうこうした状態におちいたら、後は簡単に想像がつきますよね。
損失を取り戻そうとして、また大きな金額を突っ込みはじめます。

あまつさえ、
「よし、ここはマーチンゲールの法則で取り戻してやろう！」
(※負けたら次の取引で倍の金額でエントリーする方法)
なんてことを考えはじめます。
「これなら、次、勝ちさえすれば、全て取り返せる、、、」
というマインドです。

マーチンゲールの法則は、はっきり言って、
競馬や競輪を狂ったようにしている、ギャンブラーたちが
皆、している方法です。

私は一切オススメしませんし、ハイロー(HighLow)では、前の項目でも記載し
たように、何度か続けていると、ルール違反に抵触します。

そして現実は甘くありません。
そうした状態におちいたら、必ず、また大きな損失を出します。
後は延々と、その繰り返しです。

競馬・競輪などでお金をどんどん失っていく、
ただのギャンブラーと何もかわりありません。

「無理論・無計画トレード」それをギャンブルと呼びます。

少し話しを元に戻しましょう。

ここの章の最初で記載した事柄ですが、
多くのトレーダーは、10万円から100万にすることはできます。
しかし、100万円から1000万にすることが難しいのです。

ここがポイントとなります。

100万円単位あたりを目標金額に設定していれば、
冷静なマインドを保つことが可能ということです。

ですので、ここで取るべき良き方法は、

「100万円～200万円」程度まで総額が増えたら、必ず、
「**出金**」してください。
「元資金を100万円以下」の金額に引き戻してください。

元資金は人それぞれでしょう。が、
本CLUBでは、この目標総額金額を「200万円」と設定しています。
(ここに関しても次の項目【資金運用と管理】で詳細をお伝えします)

簡単に言えば、
「**200万円**」まで達したら ⇒ 最低でも「**120万円**」は出金して、
銀行に入れてしまいましょう、ということです。

ここを1つのゴールとして、一度「リセット」してください。
これは、ベット金額のリセットということもありますが、
それと同時に精神面でのリセットということでもあります。

そして、再度トレードをするときは、
現状の金額、この例では80万円からでもいいですし、
完全にリセットして、自分が最初にした元資金の額でもいいです。

オススメするのは、自分の元資金からの再スタートです。
そうすることにより、ぐっと精神的に楽になります。

また再び初心に戻り、
「1万円でのベット」でも慎重にするようになります。

そうすることにより、徐々に、最大の目標である、
月収100万円まで辿り着くことができます。

自分のペースを崩すことなく、
一定のルールに従ってトレードを続けるために、

目標総額金額「200万円」に達したら「出金する」
という方法をとりましょう。
ちなみに、これも「見える化」の1つですよ。

⑤ 自分ルール表を作成し心で唱える

さて、5つ目のポイントですが、これも「見える化」です。
自分ルールを明確にして、それを「表」として作成しましょう。

まず、ここまでお伝えしてきた4つのポイントと、「外面的対処」でお知らせした、計「7点」の表を作成してください。

【自分ルール作成表・一覧】

- 各セオリーを理解するまではデモトレードのみ
- エントリー条件が揃わないときはトレードしない
- 2回連続負けたら一度チャートから離れる
- 目標金額に達したら出金を行う
(本CLUBでは総額目標金額を「200万円」
出金金額を「120万円」に設定しています)
- 1日のトレード時間を決める
- 週行う日数を決める
- エントリー回数の上限を決める

さらに、ここは個々の人によって違うでしょうが、何か守っておこうと思えるものがあれば自由に追記してみてください。

「自分ルール」ですので、ルールの数はいくつあっても大丈夫です。

ただし多すぎると嫌になり、ルールを守らなくなる可能性があるので、適度な数にしておきましょう。

下記に、ある生徒さんによる「自分ルール」をサンプルとして記載しておきます。参考にしてみてください。

《自分ルール・サンプル／男性・シニア世代》

- セオリーとルールをしっかり理解してから本トレード！
- エントリー条件が揃わないときは取引しない
- 2回連続負けたら一度チャートから離れる
- 目標総額金額「200万円」
- 出金金額「150万円」

- 1日トレード時間 : 3時間30分(昼12時30分～16時)
- トレード日数 : 週3日(火・水・木)
- ベット回数上限 : 7回
- 元資金・上限 : 20万円

この方は、元資金の上限を「自分ルール」に明記していますね。

とても良いと思います。

資金運用と管理は次の項目で詳しくお伝えしますね。

これら箇条書きにしたモノをプリントアウトして、目に見えるところにはっておくとさらに良いですよ。「見える化」が重要なことですから。

そして、トレードを始める前には、「自分ルール」を心の中で読んでみるとよいでしょう。

そうすることで、落ち着いた気持ちで、日々、冷静にトレードを行うことができます。

◆今日トレードしますか？ なら「Chill out」

ここで突然ですが、
「Chill out Music(チルアウト・ミュージック)」というジャンルをご存知ですか？

これは、厳密な定義はないのですが、スローテンポで落ち着いた雰囲気
の音楽のことです。



英語の「Chill out」は日本語にすると「リラックスする」「くつろぐ」「まったりする」とかの意味になるのですが、気楽に時間を過ごすときなどに使われる単語です。

「のんびりしようよ」といった感じの表現ですね。
そのまま相手に声をかけた場合は、
「まあ、落ち着いて」といったニュアンスでもあります。

なぜ、このような英語の表現を、ここで紹介したかというと、、、

バイナリーオプションをするにあたって、最後は、この
「Chill out」つまり「のんびり気楽に時間を過ごす」
という感覚ですと、とてもうまくいくんですね。

インターネット上などではよく、トレードは「忍耐だ！」
という言葉をよく見かけますが、私はあえてこの言葉を使いません。

だって、いかにも苦しく、大変そうじゃないですか。

確かに、ここまで、
各心理からマインドセットの「自分ルール」まで見てきて、
もう気がついていると思いますが、

ほとんどの事柄が、様々な誘惑に「耐える」ことで、
うまく状況が運ぶことばかりです。

しかしこれは、「耐える」なんて重々しい言葉にするから、
嫌な感じになるのであって、少し見る視点をかえれば、
違う景色が見えてくるんですよね。

それは、トレードを最初から、もっと気楽な気持ちでやれば、
耐える必要なんてどこにもない、ということです。

心理の部分でも、私も、たびたび使っている言葉で、
「一度、冷静になって、、、」と使っていますよね。

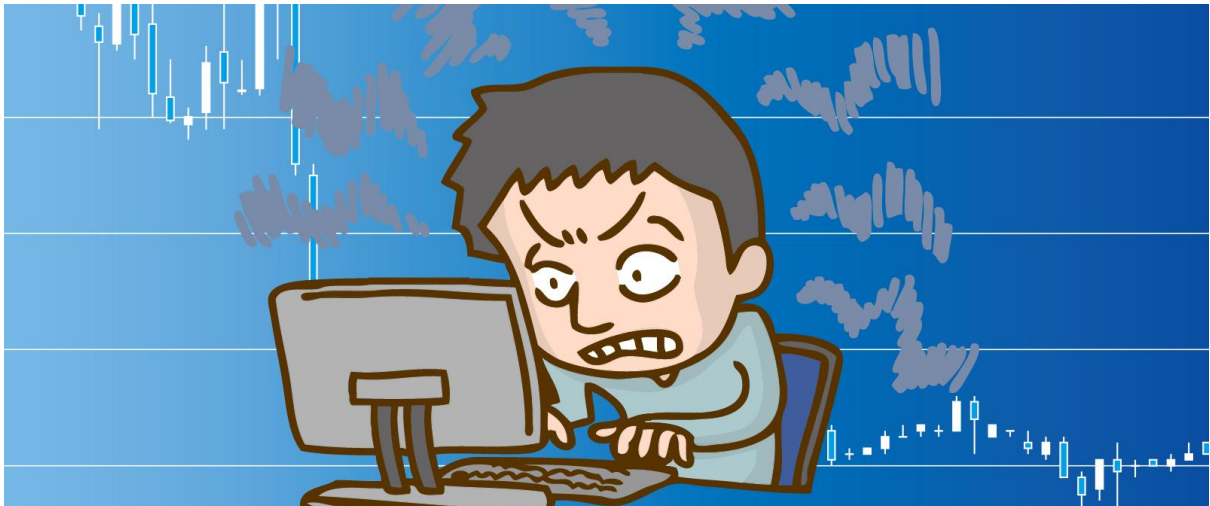
こんなときにも「Chill out(まあ、落ち着いて)！」という
言葉がピッタリ当てはまりますよね。

「プロスペクト理論」「サンクコスト効果」「認知バイアス」等々、、、他、心理の
言葉を心で唱えることは、気持ちを落ち着かせるマジックワードだとお伝えし
てきましたが、

それら全ての言葉を1つにひっくりめて、「Chill out(チルアウト)！」
と心で唱えることでも、とても心を落ち着かせる効果がありますよ。

**Chill out(チルアウト)！は、
「常に冷静になれるマジックワード」です。**

もう少し話しを続けると、、、
だいたい、負けている多くのトレーダーの人たちに限って、
どこか暗いんですよね。猛烈に必死にやっている感じで。



夜中の静まり返った時間に暗い部屋でチャートを睨みつけても、トレードで勝つことはできませんよ。

むしろ、そんな切羽詰まった状態で、トレードは忍耐だ、なんて、奥歯をかみしめながらしても、余計に神経をすり減らして、結局、最後は心が折れて、セオリー無視のトレードをするだけです。

エントリーが気楽に待てるようになる、内面的対処

トレードをしている時間より、待ち時間の方が長い。

本項目の、《はじめに》の部分から何度も触れている、理論無視・無用なトレードへの誘惑を、いかにして、簡単にはねのけるのか。

各心理や、ネガティブな感情への対処法、自分ルールを見てきました。

さらに先ほど、

《エントリー条件が揃わないときはトレードしない》ときの対処法として、外面的対処の「見える化」も、お知らせしました。

そして、もう一つ、「**内面的対処**」を、

マインドセットの「まとめ」として最後にお伝えしますね。

その内面的対処を知っていただくために、Chill Out(チルアウト)という言葉と、もう1つ、私がトレードをするときに、よく使う言葉をお伝えします。それは、、、

「たかがトレード」です。

すでに何度もお伝えしていますが、トレードは、エントリーする時間よりも、待ち時間の方が長いわけです。そこへ「待つ」という行為によりストレスが生じます。

さらにストレスから逃げたく、何か刺激を求めようと、とにかくエントリーして、ドーパミンによる興奮を得ようとしています。

それが間違いなのです。

そんなに肩ひじ張らずに、「たかがトレード」と考えて、好みのリラックスできる音楽(**Chill out music**)をかけて、のんびり気楽にトレードをすればよいのです。

そうしたら反対に、待ちのストレスどころか、日頃のストレスからも解放されて、アドレナリンへの刺激も不要になりますよ。

これが、無用なエントリーへの誘惑を簡単に払いのける「内面的対処」です。

とにかく、ゆったりした時間と空間を作ってください。

どうせ、そんなに、ポンポンとエントリーのサインなんて、出てこないんですよ。気楽に待ちましょうよ。

後は60秒コンプリートサインPLUS+のタイミングがくれば、軽やかにエントリー。何回か負けても、少額ベットの設定、気にしない気にしない。「たかがトレード」ですよ。

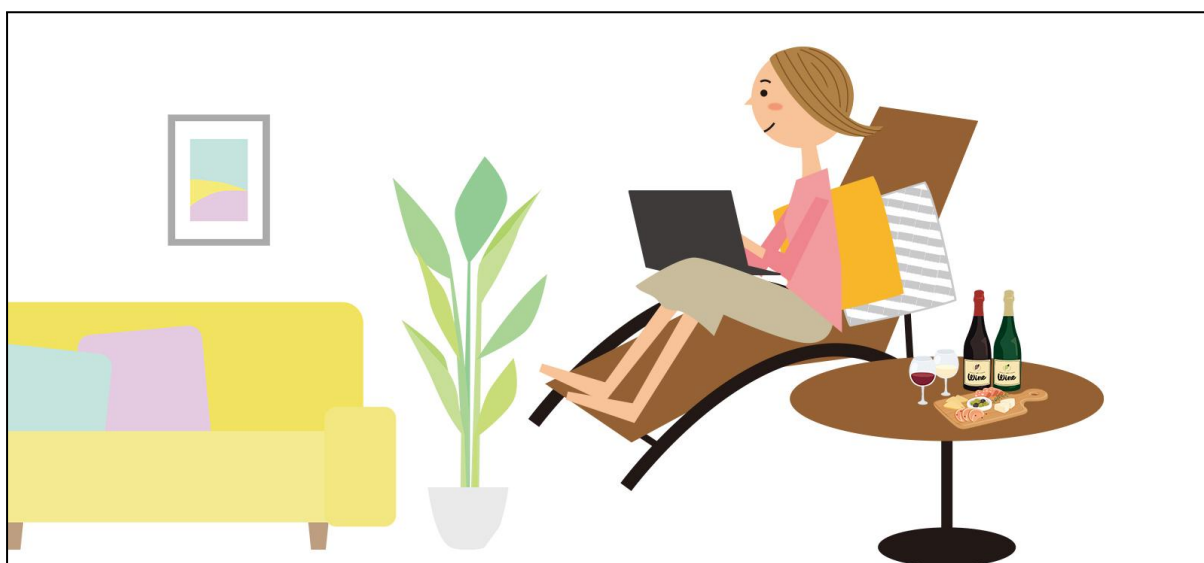
思いっきり、くつろぎましょう。

実は、これこそが、
マインドセットの究極の、そして簡単な方法なんです。

ネットではよくプロのトレーダーという言葉を見かけますが、
私は自分のことを(和製英語ですが)
「チルアウト・トレーダー」と呼んでいます。

だって、トレードって楽しいじゃないですか。

私なんて、いつも、
好きな音楽はもちろんのこと、
ゆったりしたチェアに座り、
ワイングラス片手に、
たまにチーズをつまみながら、
まったりトレードしてますよ。
《I am a CHILLOUT Trader.》



トレードなんて、それくらい気楽にすればいいんですよ。

ね、だから、「今日トレードします」って言ったら、
いつも私はこう答えます。

「じゃあ、Chill Out！」

◆さいごに

何よりも【退場】しないためにー

(※退場:資金がなくなり運用が続けられなくなることです)

バイナリーオプションをする上で、一番避けるべきこと、それは「退場」です。

もちろん誰も、自分の資金を失うためにトレードをするわけではありませんよね。利益を得るためにします。

しかし人間、一たびお金が絡むとなると、言葉通り、人が変わります。

先ほど「たかがトレード」「Chill out」と書いたけど、「でもお金がかかっているのに、そんな気楽にできないよ」と思われた方がいるかもしれませんね。

「システムツール」と「マインドセット」だけでは、確かに、お金という現実が欠けている感じですよ。

わかりますよ、言いたいことは。

現実的に、お金のことをそれほど気にせず、気楽にトレードをするためには、「プレッシャー、欲、恐れ」の部分で少し触れましたが、「多額のお金を一気にかけない」ここになります。

単発的に損失が出ても、大して気にならないぐらいの「少額のお金」でトレードをすることです。

でも「少額のお金」で、どうやって「月収100万円」を目指せるのか？と、今度は不思議になりますよね？

だから、もう1つのセオリー、「資金運用・管理」があるのです。

繰り返し触れていますが、本CLUBで習得するものは「トライアングル・セオリー」です。3つのセオリーがあって、はじめて1つの形になります。

そして、最後のセオリーは、お金をどのように運用・管理するのが適切なのかを習得します。また、お金の流れをきちんと把握することにより、ギャンブルのようなトレードを一切しなくなります。

お金の流れの「見える化」。

ここをおさえるわけです。

それでは、ここでの項目はきちんと把握しましたか？

- ▷ 誘惑を簡単にはねのける
- ▷ 的確なタイミングを冷静に待つことができる
- ▷ 慣れても自分のペースを崩さない

こうした状態を作り上げることが「マインドセット」です。
それには「チルアウト」ですよ。

さあ、チルアウトな気分で、次の項目に進みましょう。

松岡ゆず